

# 埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

—令和5年度—

2024

千葉市教育委員会



## 例言

- 1 千葉市では、市内の開発事業に先立ち、遺跡の内容や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施しています。本書は、その成果をまとめた市内遺跡埋蔵文化財調査報告書です。
- 2 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物散布地・貝塚・集落跡・古墳・塚・城館跡等を含むしたものです。
- 3 発掘調査は千葉市教育委員会が主体となり、国庫補助金と市費により実施しました。報告書は市費により刊行しています。
- 4 事業主体及び調査組織は次のとおりです。

教育委員会事務局	教育長	鶴岡 克彦
	教育次長	秋幡 浩明
生涯学習部	部長	齋木 久美子
文化財課	課長	君塚 常行
	課長補佐	横山 清次
特別史跡推進班	主査	森本 剛
	主任主事	服部 智至
	主任主事	西田 真由子
文化財保護班	主査	中尾 麻子
	主任主事	佐藤 洋
	主事	石川 茜
	主事	千葉 南菜子
新博物館準備室	室長	蚊谷 友浩
	主任主事	武田 芳雅
	主任技師	永井 明男
埋蔵文化財調査センター	所長	西野 雅人
	主査	白根 義久
	主任主事	木口 裕史
	主任主事	松田 光太郎
	主任主事	山下 亮介
	主任主事	廣澤 文彦
	会計年度任用職員	難波 美由紀
	会計年度任用職員	戸村 正己
	会計年度任用職員	岸本 高充
	会計年度任用職員	濱 秀輝

- 5 本書の執筆は各調査担当者と山下亮介が行い、編集は木口裕史と岸本高充が行いました。
- 6 出土遺物及び記録類等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管しています。

## 凡 例

- 1 本書に掲載している地図で使用した背景図の出典は以下の通りです。

発掘調査遺跡位置図 1/150,000	国土地理院基盤地図情報 10m メッシュより生成
遺跡位置図 1/10,000	千葉市基本図 (デジタルデータ)
遺跡位置図 1/2,500	千葉市基本図 (デジタルデータ)
- 2 地図・挿図の座標値は公共座標第IX系 (世界測地系) を基本としメートル表記としましたが、調査遺跡位置図は巻末の報告書抄録との整合から地理学座標系 (世界測地系) とし、経緯度で表示しました。
- 3 本書に掲載している挿図の縮尺は以下の通りです。

遺構配置図・トレンチ配置図	1/250、1/500、1/800、1/1,000
セクション図	1/50、1/60
遺物実測図	1/1、1/2、1/4
- 4 発掘調査は重機掘削が可能なところまでは重機を使用し、トレンチの壁面や包含層の掘削、遺構の検出などは人力掘削で行いました。

## 目 次

例言

凡例

目次

表 1: 発掘調査概要一覧

第 1 図: 発掘調査遺跡位置図

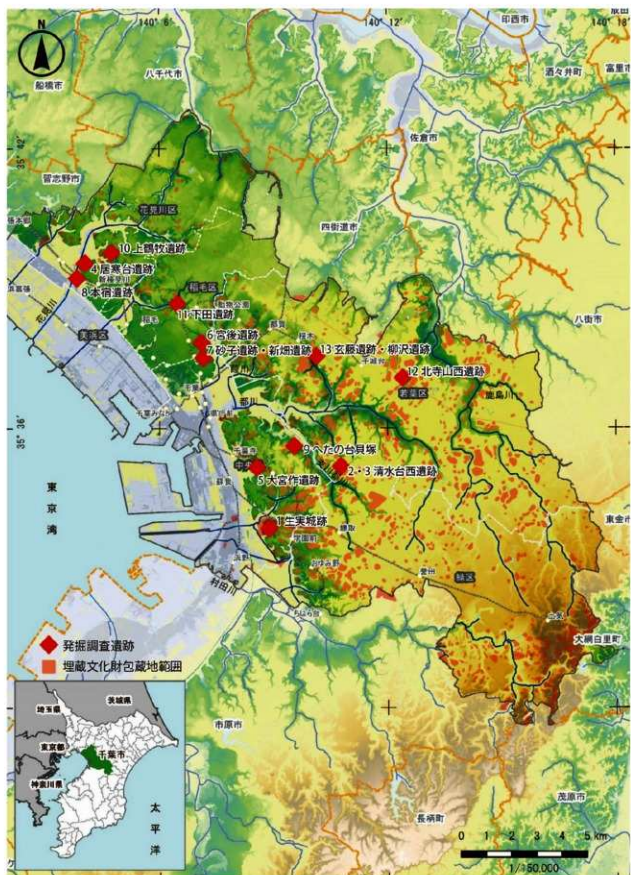
1 生実城跡	1
2 清水台西遺跡①	7
3 清水台西遺跡②	9
4 居寒台遺跡	11
5 大宮作遺跡	15
6 宮後遺跡	18
7 砂子遺跡・新畑遺跡	21
8 本宿遺跡	23
9 へたの台貝塚	27
10 上鶴牧遺跡	32
11 下田遺跡	35
12 北寺山西遺跡	40
13 玄藤遺跡・柳沢遺跡	46

巻末

表1:発掘調査概要一覧

	遺跡名 遺跡番号	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	オホミヨコウツト 生実城跡 中央-123	確認・ 本調査	4千教塚セ第400号	2023年1月16日～ 2月10日	267.0㎡	山下亮介
		市単費	中央区生実町1649-1	倉庫建築	千葉市	
2	シミズダイニン 清水台山西遺跡 若葉-190	確認調査	4千教塚セ第211号	2022年12月5日～ 2022年12月16日	180.0㎡ (9951.97㎡)	木口裕史
		国庫補助	若葉区大宮町2164-3、2166-1、同2、同3、同16、同17、同18、同19、同20、同21、2175-1、2176-1の一部、2177-1の一部、2166-4の一部、2166-6の一部、2166-15の一部、2166-35、無番地の道路	埋め立て	株式会社松本運送 平和交通株式会社	
3	シミズダイニン 清水台山西遺跡 若葉-190	確認調査	4千教塚セ第326号	2022年12月13日～ 2022年12月19日	180.0㎡ (9951.97㎡)	木口裕史
		国庫補助	若葉区大宮町2166番4、同6、同7、同22、同23、同24、同25、同35	倉庫建築	株式会社松本運送	
4	イヌムダイ 居業台遺跡 花見川-130	確認調査	4千教塚セ第259号	2022年11月7日～ 2022年11月22日	144.0㎡ (1715.0㎡)	木口裕史
		国庫補助	花見川区浪花町977-7	宅地造成	個人	
5	オホミヨコウツト 大宮作遺跡 中央-57	確認調査	4千教塚セ第377号	2023年2月1日～ 2023年2月20日	230.0㎡ (2342.35㎡)	木口裕史
		国庫補助	中央区宮崎町622-1の一部、619-2、588-4、619-2の地先	店舗建設	株式会社ファミリーマート	
6	ミヤウシロ 宮後遺跡 稲毛-65	確認調査	4千教塚セ第398号	2023年3月14日～ 2023年3月28日	90.0㎡ (902.0㎡)	木口裕史
		市単費	稲毛区作草部町916	集合住宅建築	個人	
7	スナゴ 砂子遺跡 シンハネ 新畑遺跡 稲毛-1、64	確認調査	4千教塚セ第514号	2023年4月12日～ 2023年4月24日	138.0㎡ (1408.74㎡)	松田光太郎
		市単費	稲毛区作草部町626-1、同4、同7、564-1	宅地造成	個人	
8	カンジユク 本宿遺跡 花見川-146	確認調査	4千教塚セ第531号	2023年3月16日～ 2023年3月28日	32.0㎡ (350.0㎡)	松田光太郎
		市単費	花見川区浪花町756-10、同11、同35、同36	住宅建築	株式会社中央住宅	
9	ヘタノダイキツツ へたの台貝塚 中央-84	確認・ 本調査	4千教塚セ第323号	2023年4月3日～ 2023年4月12日	40.0㎡ (40.0㎡)	木口裕史
		市単費	中央区仁戸名町273-1、273-4、273-5、276-2の各地先の一部	ガス管新設	東京ガスネットワーク株式会社	
10	スミラムヤキ 上轉牧遺跡 花見川-93	確認調査	5千教塚セ第13号	2023年5月18日～ 2023年5月26日	93㎡ (968.0㎡)	木口裕史
		国庫補助	花見川区畑町840	宅地造成	タフホーム株式会社	
11	シモダ 下田遺跡 稲毛-38	確認調査	5千教塚セ第11号	2023年6月8日～ 2023年6月28日	117.5㎡ (1952.20㎡)	木口裕史
		市単費	稲毛区園生町778、781-9、778地先	宅地造成	昭和ハウジング販売株式会社	
12	キタテラヤマニシ 北寺山西遺跡 若葉-250	確認調査	5千教塚セ第29号	2023年6月29日～ 2023年7月21日	378.0㎡ (5059.00㎡)	木口裕史
		国庫補助	若葉区金程町120-1、同4、129-12	太陽光発電施設建設	水野商事株式会社	
13	ボンノウ 玄徳遺跡 ササゴヤフ 柳次遺跡 若葉-125-126	確認調査	5千教文第78号	2023年5月22日～ 2023年6月30日	440㎡ (4400.16㎡)	服部智至
		市単費	若葉区小倉町1027-5外37筆	博物館および周辺施設整備	千葉市	

\*調査面積の下段( )内は事業面積



第1図：発掘調査遺跡位置図

## 1. 生実城跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	オキミツコウツ 生実城跡	確認・ 本調査	4千教理七第400号	2023年1月16日～ 2023年2月10日	267.0㎡	山下亮介
		市単費	中央区生実町1649番1	倉庫建築	千葉市	



第2図：生実城跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和4年6月20日付けで千葉市消防団より消防団器具置場改築にかかる文化財保護法第94条に基づく通知がなされた。対象地への埋蔵文化財の有無照会を受けて令和3年10月15日に実施した試掘調査にて、覆土に貝を含む土坑等が確認されていたため、速やかにその保存に向けて協議を開始した。しかしながら、埋蔵文化財への影響は避けられないことが判明したため、本調査の実施ということで協議が整い、確認・本調査を実施した。

この地点は生実城の本城があったところから、約450m南東に下った集落部の小字「町並」にあたる場所であり、大手口側から3区画に分かれるうちの「中宿」にあたる場所である（長原他2002）。この際の報告における「IX郭」に該当する場所でもある。

### (2) 調査成果

確認・本調査対象地では南北に約8.5m、東西に約9.1mの調査区を設定したが、8割近くが既存建物の基礎に

表2：生実城跡調査履歴

調査年	調査要因	発行情報
1 昭和56	県営住宅建設	(黒)大道通跡・生実城跡 1983
2 昭和57	県営住宅建設	(黒)大道通跡・生実城跡 1983
3 昭和57	県営住宅建設	(黒)大道通跡・生実城跡 1983
4 昭和59	県営住宅建設	抄帳 昭和59
5 昭和59	市都市計画道路	抄帳 昭和59
6 昭和63	市都市計画道路	生実城跡2002
7 平成03	市都市計画道路	生実城跡2002
8 平成03	市都市計画道路	生実城跡2002
9 平成03	市都市計画道路	生実城跡2002
10 平成04	資材置場建設	市内平成04年度
11 平成04	市都市計画道路	生実城跡2002
12 平成05	市都市計画道路	生実城跡2002
13 平成06	市都市計画道路	生実城跡2002
14 平成07	市道路整備	生実城跡2001
15 平成08	市道路整備	生実城跡2001
16 平成09	市道路整備	生実城跡2001
17 平成09	市内道路	市内平成09年度
18 平成09	出光開産給油所	生実城跡2000
19 平成17	アイランドホーム宅地	未報告
20 平成24	宅地造成	未報告
21 平成25	市内道路	市内平成25年度
22 令和01	市内道路	市内令和元年度
23 令和01	開発事前	市内令和02年度
24 令和02	開発事前	市内令和02年度

よりハードローム層まで攪乱されており、地表面から約15cmは全面的に整地跡の痕跡が残っている。堆積層のほとんどからは、現代のゴミが混じっているため攪乱を受けていることがわかる。基本的な層序として表土、現代の整地面、中・近世の褐色土、ローム層の4層からなる。

攪乱されていない面では中・近世頃の造成跡が確認

できている。遺構としては中・近世の土坑4基、土坑より新しい溝状遺構が1条確認できた。また溝状遺構は造成面よりも後世のものである。溝状遺構は検出した土坑と同じように中・近世に該当する可能性が高い。

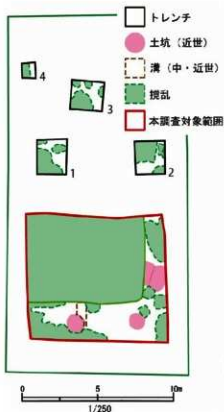
試掘坑で検出した1号土坑は上層にシオフキを主体、下層にはバカガイ主体の貝層を形成しており、全量をサンプリングした。分析結果は別に報告する(西野2003)。年代は貝類相から16世紀後半以降である可能性が高い。

2号土坑は調査区の南東角で確認した。深さ約0.8mを測り、長軸1.1m短軸1m規模の土坑である。確認面上面で破砕した貝が面的に散らばっていたが、覆土中にはほとんど確認できなかった。

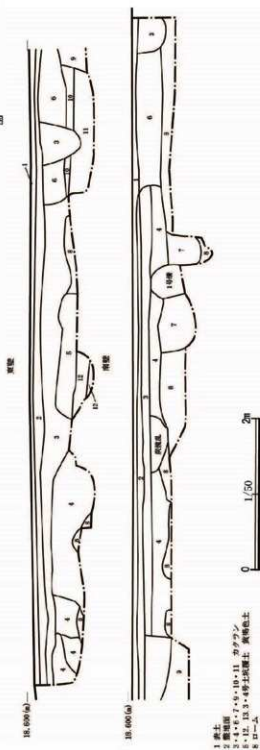
調査区東側から3・4号土坑を確認し、これらは切合の関係で3号土坑は4号土坑によって壊されている。時期は中・近世と推定される。

1号溝は試掘跡を横断する形で調査区南壁から約2.5m進んだ攪乱まで伸びている。4度に渡って硬化しており、その単位は破砕した貝層で確認できる。溝の覆土はかなり硬化しており、通り土間などの道として使われていた可能性も考えられる。いずれの遺構も中・近世に該当すると考えられる。

また確認調査として北側にも4か所トレンチを設定して調査を行ったが、いずれも攪乱がひどく、遺構は確認できなかった。



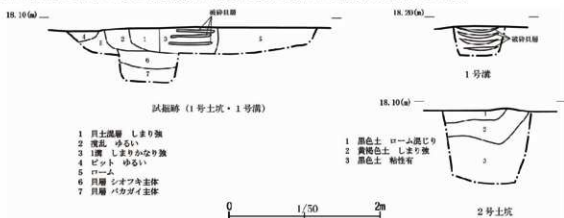
第3図：遺構配置図



第4図：調査区セクション図



本調査地点は遺跡内において周辺の調査例がなく、城下町としての背景が不明瞭であった。しかし、今回の調査で当時の人の生活痕跡が確認でき、文献上の記録が裏付けられた。



第5図：遺構セクション図

### (3) 出土遺物

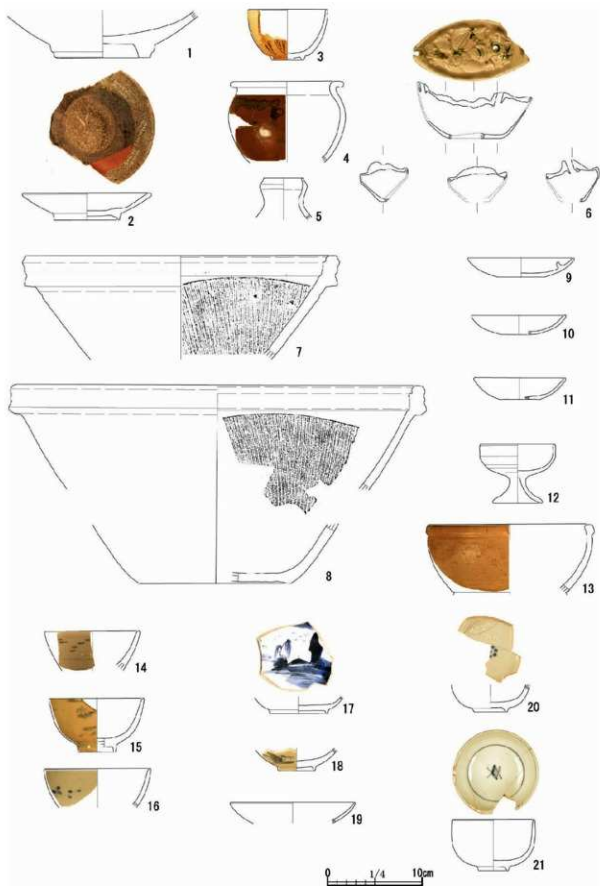
遺構から出土するものは近世の陶器・磁器が大半を占め、また擾乱からも同様な遺物を確認できる。ほとんどは生活の道具である。また2号土坑の確認面より約0.7m下から寛永通宝が2枚(29、30)が出土している。

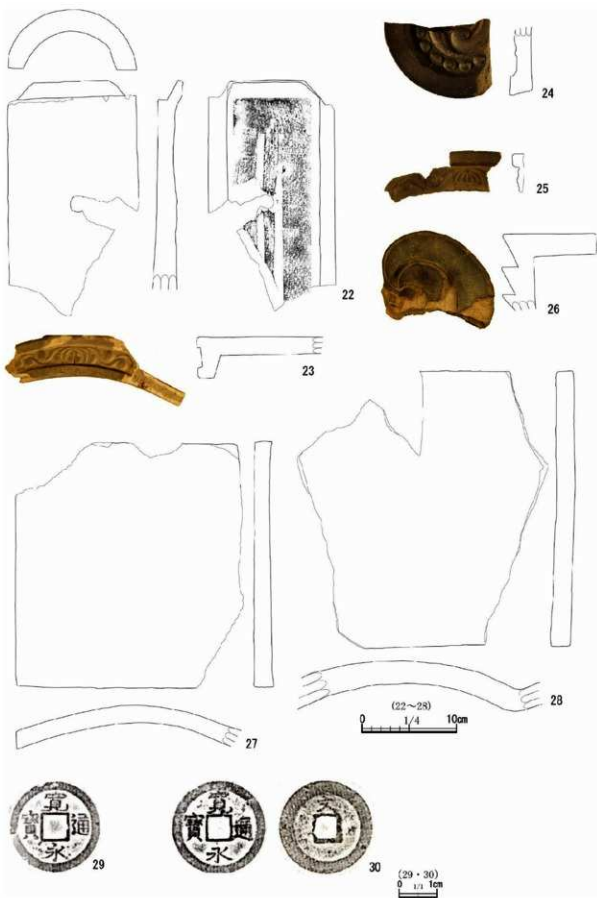
表3：遺物観察表

№	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	近世	陶器	大鉢(三島手)		カクラン	肥前系 17C後葉～
2	近世	陶器	中鉢		P3.P6	瀬戸・美濃系 17C代?
3	近世	陶器	中鉢(小杉鉢)		2号土坑	信・濃美系 18C後葉～
4	近世	陶器	小鉢		2号土坑、カクラン	瀬戸・美濃系
5	近世	陶器	徳利		2号土坑	瀬戸・美濃系
6	近世	陶器	水筒		2号土坑	瀬戸・美濃系
7	近世	陶器	漆鉢		2号土坑	瀬戸・美濃系
8	近世	陶器	漆鉢		2号土坑	徳・伊石系
9	近世	陶器	灯明皿		2号土坑	瀬戸・美濃系
10	近世	陶器	灯明皿		カクラン	信濃系
11	近世	陶器	灯明皿		2号土坑	瀬戸・美濃系
12	近世	陶器	仏前鉢		カクラン	瀬戸・美濃系
13	近世	陶器	中鉢		3号土坑	瀬戸・美濃系
14	近世	磁器	碗(くらわんか手)		カクラン	波佐見・甲府系 17C後葉～
15	近世	磁器	中鉢(くらわんか手)		カクラン	肥前系 18C前葉～
16	近世	磁器	中鉢(くらわんか手)		3号土坑	肥前系 18C前葉～
17	近世	磁器	中鉢		カクラン	肥前系 18C前葉～
18	近世	磁器	中鉢		P3	肥前系 18C前葉～
19	近世	磁器	小皿		カクラン	肥前系 18C中葉～
20	近世	磁器	中鉢		2号土坑	肥前系
21	近世	磁器	小鉢(小丸鉢)		カクラン	肥前系 18C中葉～
22	近世	瓦	丸瓦		カクラン	裏面に布目痕。中央に穿孔
23	近世	瓦	軒平瓦		4号土坑	
24	近世	瓦	軒丸瓦		カクラン	巴文と珠文が確認できる。裏面は見えない。
25	近世	瓦	物瓦(軒平瓦)		4号土坑	瓦布が剥離したもの。
26	近世	瓦	鬼瓦		カクラン	壁の一部か。
27	近世	瓦	桃瓦		4号土坑	裏面に縁の残付あり。布目痕は見えない
28	近世	瓦	桃瓦		カクラン	布目痕は見えない。

表4：出土銭観察表

出土地点	銭質名	外径(mm)	外径・横(mm)	外縁 最大厚(mm)	重量(g)	備考
29 2号土坑	寛永通寶	23.6	23.6	0.9	2.3	新寛永
30 2号土坑	寛永通寶	24.9	25.1	1.4	3.3	文銭 新寛永





#### (4) 今後の取り扱い

今回の発掘調査により、対象地の周辺は堆積が薄く、近代以降の削平の影響が強いエリアであることが分かったが、中世から近世の遺構も一部遺されている。この時期の重要遺跡であり、今後も細心の注意を払う必要がある。

#### 参考文献

長原直他 2002「千葉市生実城跡-昭和63年度・平成3～6年度調査-」千葉市教育委員会

西野雅人 2023印刷中「千葉市主要貝塚資料分析報告(令和5年度) 生実城 S63・H6・R3」『貝塚博物館紀要』50



1号土坑・1号溝 (試掘)



1号土坑・1号溝セクション



1号土坑



2号土坑



1号溝断面



2号トレンチ (攪乱の状況)

## 2. 清水台西遺跡①

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
2 シズメダイオン 清水台西遺跡	確認調査	4千教理セ第211号	2022年12月5日～ 2022年12月16日	180.0㎡ (9951.97㎡)	木口裕史
	国庫補助	若葉区大宮町2164-3、2166-1、同2、同3、同16、同17、同18、同19、同20、同21、2175-1、2176-1の一部、2177-1の一部、2166-4の一部、2166-6の一部、2166-15の一部、2166-35、無番地の道路	埋め立て		株式会社松本運送 平和交通株式会社

\*調査面積の下段( )内は事業面積



第6図：清水台西遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和4年7月1日付けで株式会社松本運送および平和交通株式会社より連名で埋め立て工事にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査を実施した北側斜面で縄文時代の陥し穴遺構が確認されたため、その保護に向けて協議を開始した。

本事業では厚く盛土して谷を埋めてしまうため、埋蔵文化財への影響はないということで、全城保存で協議が整ったが、将来的に開発行為を行う際には確認調査が難しいという判断から、事業地内の埋蔵文化財の内容を把握するための確認調査を実施することとした。

### (2) 調査成果

清水台西遺跡は、仁戸名川(支川都川)から北に延びる谷津の西斜面から台地上に位置し、標高約38mを測る。平成2・7年度に遺跡範囲の北西部を調査しているが、その際には遺構は確認されなかった。

対象地は遺跡範囲の南東側で台地の東端に位置する。対象地のうち南西側については大きく攪乱を受けており、南東側はローム層が露出して急斜面となっている。調査は、影響を受けていない北西側を対象に3m×3mのトレンチを公共座標に合わせて20か所を設定し、調査状況に応じて一部拡

張して確認作業を実施した。

調査の結果、調査区に北側において縄文時代の土坑（陥し穴）を検出した。また、中央西寄り付近で近世の炭焼き窯と関連する焼土跡を確認している。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層（表土）0.2m前後、2：黄褐色土層0.2m～0.4m、3：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。

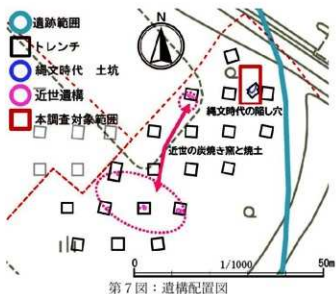
### （3）出土遺物

遺物の出土は希薄であり、3か所のトレンチから、縄文土器片が3点、1か所のトレンチからは近世の泥めこ1点が出土している。

本遺跡はこれまで古墳～平安時代の遺跡として登録されており、さらに北東側では遺構が確認されていたが、今回の調査で縄文時代・近世の遺構を有することがわかった。

### （4）今後の取り扱い

事業地北側で縄文時代の陥し穴が確認された周辺で、将来的に土木工事を行う際には埋蔵文化財の保護措置が必要である旨を申し送りした。



第7図：遺構配置図



遺跡現況



炭焼き窯検出状況



炭窯セクション



陥穴セクション

### 3. 清水台西遺跡②

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
3	シミズダイニン 清水台西遺跡	確認調査	4千教埋せ第326号	2022年12月13日～ 2022年12月19日	180.0㎡ (9951.97㎡)	木口裕史
		国庫補助	若葉区大宮町2166-4、同6、同7、同22、 同23、同24、同25、同35	倉庫建築	株式会社松本運送	

\* 調査面積の下段( )内は事業面積



第8図：清水台西遺跡位置図

#### (1) 調査に至る経緯

隣接地での埋蔵文化財保護に向けた協議の中で、株式会社松本運送より新たに本事業地も加えたい旨の申し出があり、令和4年10月24日付けで埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。隣接地での試掘調査で縄文時代の陥し穴が検出されていたため、発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査に着手した。

#### (2) 調査成果

清水台西遺跡は、仁戸名川（支川都川）から北に延びる谷津の西斜面から台地上に位置し、標高約38mを測る。対象地は遺跡範囲の中央部に位置する。

今回の調査は、公共座標を基準にして3m×3mのトレンチを23か所設定して、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、遺構の検出はなかった。

各トレンチの堆積は一部で盛土層を確認したが、一様に確認できた基本的な層序は、1：暗褐色土層（表土）0.2m～0.3m、2：黄褐色土層0.2m～0.3m、3：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。2は、一部確認できないトレンチも見られた。

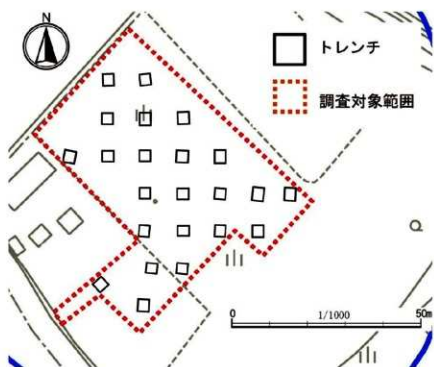
#### (3) 出土遺物

8か所のトレンチから、21点の縄文土器が出土しており、有文の18点は後期安行に属する。

#### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、縄文土器はわずかに散布するものの遺構などは確認されなかった。





第9図：トレンチ位置図

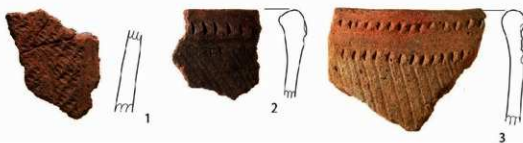


表5：出土遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土器	加屋利E II	深鉢	205T一拵	キャリバー形。凡、沈瀬、裏リ演し縄文。
2	縄文	土器	後期安行	深鉢	205T一拵	口縁部に縦状刺突文がまわり、沈瀬で区画された奥部に条線。
3	縄文	土器	後期安行	深鉢	211T一拵	口縁部に縦状刺突文が2段まわり、奥部に条線。



遺跡現況



トレンチ完掘状況



#### 4. 居寒台遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
4	イサムダイ 居寒台遺跡	確認調査	4千教壇セ第259号	2022年11月7日～ 2022年11月22日	144.0㎡ (1715.0㎡)	木口裕史
		国庫補助	花見川区浪花町977-7	宅地造成	個人	

\*調査面積の下段( )内は事業面積



第10図：居寒台遺跡位置図

##### (1) 調査に至る経緯

令和4年9月5日付けで個人より宅地造成にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和4年9月28日に実施した試掘調査で、住居跡や土坑などの遺構や土師器などの遺物が検出されたため、確認調査を実施した。

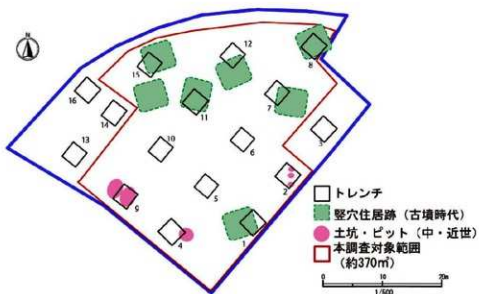
##### (2) 調査成果

居寒台遺跡は、花見川河口付近の東岸に東から西に張り出す台地上先端部にあり、標高約18m～20mを測る。対象地は遺跡範囲の北西側台地縁辺部に位置し、北西側が急崖となっている。

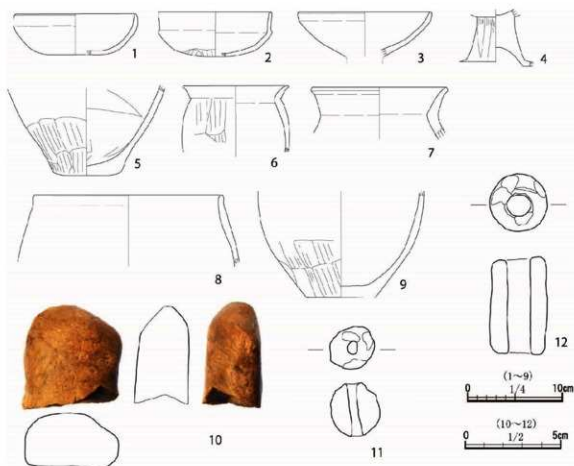
調査は、3m×3mのトレンチを任意に16か所設定した。その結果、トレンチ6か所において古墳時代の住居跡6軒、ピット3基、中・近世の土坑3基を確認している。試掘調査において住居を1軒確認しており、合わせて7軒の確認となった。古墳時代の遺構は、北側の台地縁辺部に密集しているが、これまでの調査より南側台地中央部にも展開しているものと考えられる。中・近世の遺構は調査区の南西側で確認した。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層（表土）：0.2m～0.45m、2：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。検出遺構は、2層の上面で確認した。

本遺跡は、部分的に発掘調査が行われ、多くの堅穴住居が確認されている。特に対象地の西側、平



第11図：遺構配置図



成3年度調査では旧石器の遺物集中、古墳時代から平安時代までの竪穴住居が43軒、掘立柱建物跡20軒が確認され、遺構が集中した状況で展開したことが明らかになっている。また、南部を中心に、遺跡全体で土鍾が見つかり、漁労を行っていたと考えられる。

今回の調査結果では遺跡北西部の台地辺縁までも古墳時代の集落が続いていることが明らかになった。また、土鍾も5点確認された。東側に隣接する平成14・16年度調査では集落から段口縁環や比企環が見つかった。位置関係からは、今回の調査で確認された住居とひと続きの集落のよう

ではあるが、有段口縁環や比企環は確認できなかった。

### (3) 出土遺物

遺物は、全部の確認トレンチから出土しており、土師器 263 点、須恵器 7 点、磁器 28 点、泥面子 8 点、土錘 5 点、叩き石 1 点、礫 4 点、鉄釘 5 点が出土している。土師器は甕が主体で、他に坏、高坏などが出土している。出土した甕の多くは、強く被熱しており非常に脆くなっている。中・近世遺物は、磁器と泥めんこ等の江戸ゴミ等が出土している。

表 6：出土遺物観察表

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	土師器	坏	身	1T住居内	外面：口縁 ココナデ、体部 ナデ、内面：ナデ
2	古墳	土師器	坏	身	1T住居内	外面：口縁 ココナデ、体部 ヘラケズリーナデ、内面：ナデ
3	古墳	土師器	高坏	身	1T住居内	外面：ナデ、内面：ナデ、古墳後期
4	古墳	土師器	高坏	胴	1T住居内	外面：タテヘラケズリ、古墳後期
5	古墳	土師器	甕	胴～底部	1T住居内	外面：タテヘラケズリ
6	古墳	土師器	甕	胴～底部	7T一拵	外面：口縁 ココナデ、体部 タテヘラケズリーナデ、内面：ココナデ
7	古墳	土師器	甕	口縁	13T一拵	外面：口縁 ココナデ、内面：ココナデ
8	古墳	土師器	甕	口縁	13T一拵	外面：口縁 ココナデ、体部 ナデ、内面：ナデ
9	古墳	土師器	小型甕	口縁	13T一拵	外面：体部下部 タテヘラケズリ
10	不明	石器	叩き石		1T一拵	
11	古墳	土製品	土錘	埴状	1T一拵	
12	古墳	土製品	土錘	埴状	4T土坑2内	



出土土錘

### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 1,715 m<sup>2</sup>の約 70%にあたる 1,250 m<sup>2</sup>が本調査対象範囲となった。また、遺構確認面までの深さも 20 cm程度と非常に浅いため、造成工事着手前には本調査が必要である旨を 4 千教理セ第 373 号にて通知した。



遺跡現況



1 トレンチ遺構検出状況



1 トレンチ住居壁溝



1 トレンチ遺物出土状況



9 トレンチ遺構検出状況



15 トレンチ遺構検出状況



15 トレンチ遺物検出状況①



15 トレンチ遺物検出状況②

## 5. 大宮作遺跡

	遺跡名	調査種別 事業区分	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
			調査地	調査の原因	原因者	
5	オオミヤザク 大宮作遺跡	確認調査	4千教埋セ第377号	2023年2月1日～ 2023年2月20日	230.0㎡ (2342.35㎡)	木口裕史
		国庫補助	中央区宮崎町622-1の一部、619-2、588-4、619-2の地先	店舗建設	株式会社ファミリーマート	

\*調査面積の下段( )内は事業面積



第12図：大宮作遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和4年11月28日付けで株式会社ファミリーマートより店舗建築にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和4年12月23日に実施した試掘調査にて、中世の土坑や常滑焼の大甍の破片などが検出されたため、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、確認調査を実施した。

### (2) 調査成果

大宮作遺跡が所在する台地は、北と南を東京湾より西から東に谷津が入り込み、さらに小支谷によって台地が刻まれている。遺跡の北東側台地続きには、大北遺跡が位置し、北西側台地続きに山ノ神遺跡が所在する。

調査対象地は遺跡の中央部付近から北側にかけて南北に長い範囲で標高約24m前後を測る。

調査は、対象地範囲に合わせた任意の10mグリッドを基準に2.0m×2.5mのトレンチを43か所設定して行ったが、確認状況によってはトレンチの一部を拡張して調査を実施した。

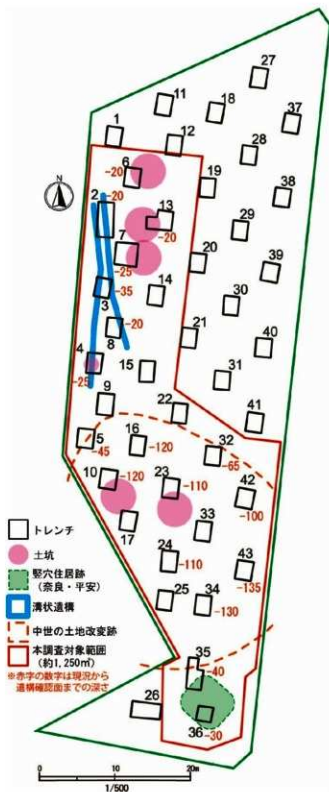
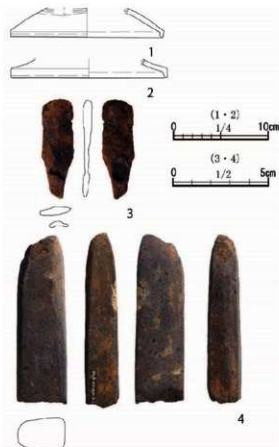
調査の結果、対象地の南端付近で奈良・平安時代竪穴住居跡1軒を確認し、北側の西より部分で中世の土坑6基、溝状遺構2条と中央南側で径約35m範囲の一段下がった土地整形遺構を確認した。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層（表土）、2：褐色土層、3：黒褐色土層及び類似層、4：褐色土層、5：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。1層は耕作土で

0.25m～0.5mを厚さ測り、東側が厚く堆積する傾向を示している。遺構は、4層の上面で確認でき、表土上面より0.45m～0.6mの深さで確認した。

### (3) 出土遺物

土師器45点、須恵器6点、陶器33点、磁器1点、小刀1点、砥石2点が出土している。陶器33点の内、半数は常滑の大甍、残りは古瀬戸の碗などが主体となっている。奈良・平安時代の遺物は、多くのトレンチで若干数出土しているが、遺構を確認したトレンチで土師器・須恵器をやや多く確認している。また、中世の土坑や土地整形遺構を確認したトレンチで陶器、鉄器等が出土している。



第13図：遺構配置図



#### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 2,342.35 m<sup>2</sup> の約 53% にあたる 1,250 m<sup>2</sup> が本調査対象範囲となった。この内、店舗、看板、進入路などが計画されている 364 m<sup>2</sup> については埋蔵文化財への影響が避けられないため、令和 5 年 5 月より、公益財団法人千葉市教育振興財団によって本調査が実施された。この調査については令和 5 年度末に報告書刊行する（小林 2024）。

それ以外の部分については駐車場となるため、保護層を確保して、現状保存とした。

小林 2024 印刷中『千葉市大宮作遺跡-店舗建設に伴う埋蔵文化財調査報告書-』公益財団法人千葉市教育振興財団

表 7：出土遺物観察表

№	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	奈良・平安	酒壺類	杯蓋	口縁	36T	ロクロ成形 外面：上部ヘラケズリ
2	奈良・平安	酒壺類	杯蓋	口縁	36T	ロクロ成形
3	古代	鉄製品	小刀	基部	34T	
4	古代	石製品	礫石			



調査風景



2 トレンチ遺構検出状況



5 トレンチ遺構検出状況



7 トレンチ遺構検出状況①



7 トレンチ遺構検出状況②

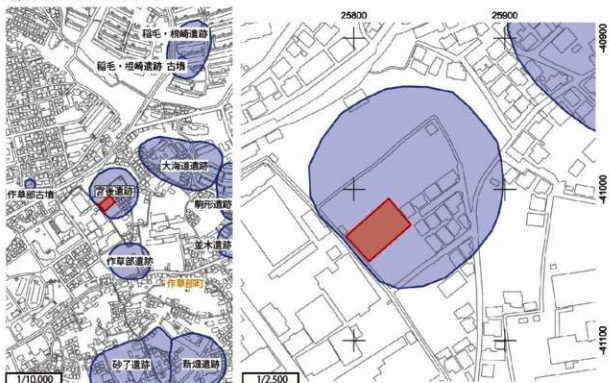


13 トレンチ遺構検出状況

## 6. 宮後遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
6	ミヤウシロ 宮後遺跡	確認調査	4千教埋せ第398号	2023年3月14日～ 2023年3月28日	90.0㎡ (902.0㎡)	木口裕史
		市単費	稲毛区作草部町916	集合住宅建築	個人	

\*調査面積の下限( )内は事業面積



第14図：宮後遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和4年12月9日付けで個人より集合住宅建築にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和4年12月26日に実施した試掘調査で、奈良・平安時代の竪穴住居や土師器などを検出したため、その広がりを確認することで協議が整い、確認調査を実施した。

### (2) 調査成果

千葉市の中心市街地へ向けて南へ流れる葭川の中流域から、下総台地を西に切り込む谷の南岸の標高約19m前後の台地上に位置する。

調査対象地は遺跡の中央付近から南西かけての部分で東に傾いた長方形の範囲である。

調査は、対象地範囲に合わせた任意の10mグリッドを基準に3m×3mのトレンチを9か所と1m×10mを十字に配したトレンチを設定して実施した。

調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代竪穴住居跡1軒、土坑2基を確認した。確認遺構のうち竪穴住居跡2軒は対象地中央付近で重複した状態で検出した。奈良・平安時代住居からは貝層が検出され、直下の黒色土層から9世紀ごろの土器が多数出土した。遺構の時期・性格を確認するため、貝層の一部を掘り下げた。貝サンプルとして保管しており、分析結果は別に報告する。また土坑は、調査区の南西側で確認している。

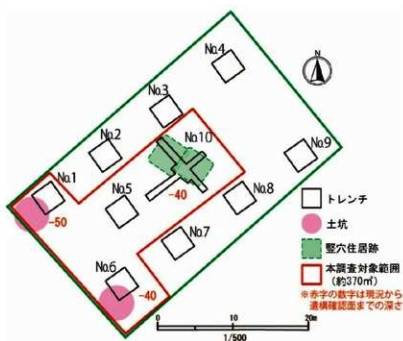
各トレンチの基本的な層序は、1：暗褐色土層（耕作土）0.3m～0.4m、2：黒褐色土層（遺物包含層）0.15m、3：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。2は、一部のトレンチで確認した。



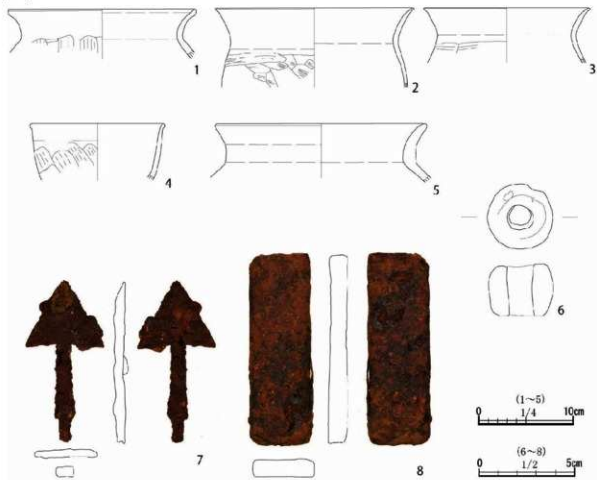
本遺跡には調査履歴はなく、縄文時代早期の遺跡とされていた。今回の調査では、縄文時代は土器片が確認されたのみで、主体となったのは奈良時代から平安時代までの土師器であった。本遺跡周辺には同時代の駒形遺跡や砂子遺跡があり、そうした遺跡との関連がある可能性がある。

### (3) 出土遺物

縄文土器 1 点、土師器 108 点、須恵器 2 点、陶器 13 点、土鍾 1 点、鉄鍬 1 点、板状鉄製品 1 点、泥面子 7 点が出土している。遺物は奈良・平安時代のものが中心で遺構以外からの出土はほとんどない。



第 15 図：遺構配置図



### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 902 m<sup>2</sup> の約 10% にあたる 90 m<sup>2</sup> が本調査対象範囲となったが、保護層が十分に確保できることが確認できたため現状保存とした。

表 8：出土遺物観察表

№	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	土師器	壺	口縁	67土坑内	外面：ヨコナデ、胴部 タテヘラケズリ、内面：ヨコナデ
2	古墳	土師器	壺	口縁	107住居1内	外面：ヨコナデ、胴部 軽いヘラケズリ、内面：ヨコナデ
3	古墳	土師器	壺	口縁	107住居1内	外面：ヨコナデ、胴部 ヘラケズリ、内面：ヨコナデ
4	古墳	土師器	壺	口縁	107住居1内	外面：ヨコナデ、内面：ナデ
5	奈良・平安	土師器	埴	口縁	107住居2内	外面：ヨコナデ、内面：ナデ
6	奈良・平安	土製品	土埴		107住居2内	長さ25.8cm、幅34.7cm、厚さ34.4mm、重さ31.9g。
7	奈良・平安	鉄製品	鉄錘		107住居2内	長さ84.7cm、幅42.0cm、厚さ7.6mm、重さ18.8g。先の形状はやや聞き気味の三角形。
8	奈良・平安	鉄製品	板状製品		107住居2内	長さ100.9cm、幅33.2cm、厚さ9.8mm、重さ197.5gの長方形。



1 トレンチ遺構検出状況



6 トレンチ遺構検出状況



10 トレンチ貝層検出状況①



10 トレンチ貝層検出状況②



10 トレンチ住居切り合い検出状況

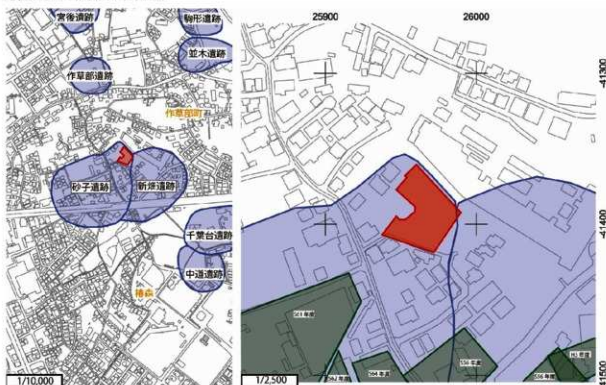


10 トレンチカマド検出状況

## 7. 砂子遺跡・新畑遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
7	スナゴ 砂子遺跡 シンハラ 新畑遺跡	確認調査	4千教埋セ第514号	2023年4月12日～ 2023年4月24日	138.0㎡ (1408.74㎡)	松田光太郎
		市単費	稲毛区作草部町626-1、同4、同7、564-1	宅地造成	個人	

\* 調査面積の下段( )内は事業面積



第16図：砂子遺跡・新畑遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和5年2月20日付けで個人より宅地造成にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和5年3月15日に実施した試掘調査で、古墳時代の可能性のある土坑や土師器などを検出した。遺構が検出された場所は従来の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であったため、令和5年4月5日、砂子遺跡と新畑遺跡の遺跡範囲の変更を千葉県教育委員会に報告した（5千教埋セ第148号）。また遺跡内における遺構等の存在状況を確認することで協議が整い、令和5年4月10日付け埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

### (2) 調査成果

調査は対象地の全域を網羅するように、2.0×2.5mのトレンチを29か所掘削した。その結果、対象地の北半において、奈良・平安時代の遺構が確認された。確認された遺構は竪穴住居跡5軒、柱穴3基である。

各トレンチから得られた基本的な層序は1層：表土、2層：黒褐色土（遺物包含層）からなり、2層の下に、暗褐色土ないしローム質土がある。この暗褐色土ないしローム質土が遺構確認面となった。

### (3) 出土遺物

土師器が109点、須恵器が7点、陶器が7点、染付が3点、灰釉陶器が4点、泥面子が1点出土している。主に竪穴住居の覆土中から、奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。

#### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 1,408.74 m<sup>2</sup>の約 44%にあたる 620 m<sup>2</sup>を本調査対象範囲とした。この内、上下水道などのインフラを配置する砂子遺跡の 320 m<sup>2</sup>については埋蔵文化財への影響が避けられないため、24日より、公益財団法人千葉市教育振興財団によって本調査が実施され、竪穴住居跡3軒が調査された。この調査については令和5年度末に報告書を刊行する。(小林 2024)

それ以外の部分については盛土などで保護層を確保して、現状保存とした。



第 17 図：遺構配置図

小林 嵩 2024 印刷中『千葉市砂子遺跡(第 4 次)―宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書―』公益財団法人千葉市教育振興財団



2 トレンチ遺構検出状況



3 トレンチ遺構検出状況



12 トレンチ遺構検出状況

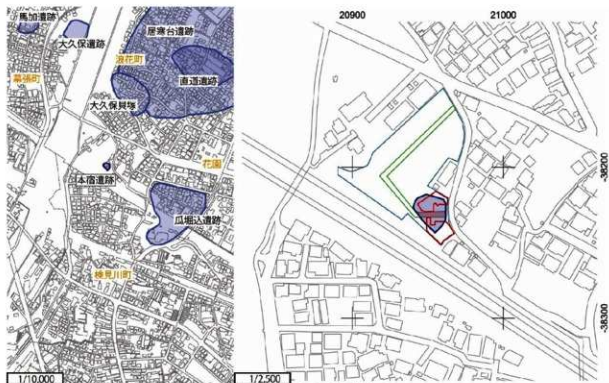


17 トレンチ遺構検出状況

## 8. 本宿遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
8	ホリゾク 本宿遺跡	確認調査	4千教埋せ第531号	2023年3月16日～ 2023年3月28日	32.0㎡ (350.0㎡)	松田光太郎
		市単費	花見川区浪花町756-10、同11、同35、同36	住宅建築	株式会社中央住宅	

\*調査面積の下限( )内は事業面積



第18図：本宿遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

対象地を含む一帯は令和3年度に宅地造成工事が実施されたが、道路部分における水道工事中に人骨が発見され、令和4年1月13日、職員が現地へ赴き、中・近世の人骨と共存遺物を確認した。また2月14日、遺跡発見者による文化財保護法第96条に基づく遺跡発見の届出があり、千葉県教育委員会は、同日、埋蔵文化財包蔵地の新発見の報告を千葉県教育委員会教育長宛に行くと同時に、遺跡発見者に対し工事立会の指示を通知した。その後、3月1日に道路部分における水道工事中に再び人骨が発見された。

造成工事終了後の令和5年2月14日、同一造成地内の建売住宅建築工事に先立ち、株式会社中央住宅より埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。隣接の道路部分で人骨が発見されていることから、3月2日発掘調査の指示を通知し



第19図：遺構配置図

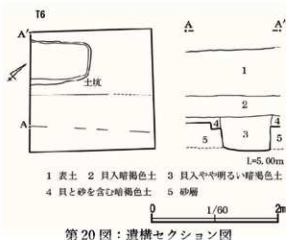
た（4千教埋セ第531号）。その後、遺跡内における遺構等の存在状況を確認することで協議が整い、令和5年4月10日付け埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

## (2) 調査成果

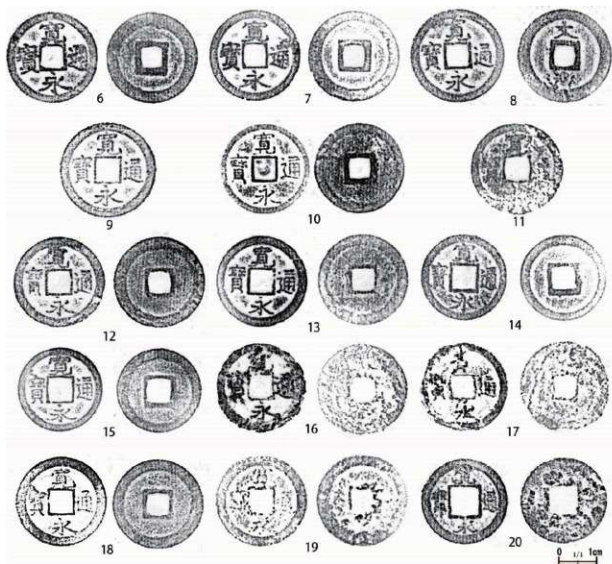
調査は道路の南北両脇に設定された住宅建設部分を網羅するように、2.0×2.5mのトレンチを8か所掘削した。その結果、対象地の南半においては、遺構は確認されなかった。対象地の北半も3か所は攪乱しか確認できず、6トレンチのみにて土坑が1基のみ確認されたため、確認調査の中で遺構の調査を実施することにした。

土坑は精査の結果6トレンチの西寄りで検出され、一部はトレンチ外に出ていた。トレンチ内では0.96m×0.70m、確認面からの深さは0.55mの掘り込みが確認された。土坑は砂層を掘り込んで構築されていた。土坑の覆土は貝と砂を含む暗褐色土からなっていた。土坑からは遺物は出土せず、時期は不明である。土坑の続きはトレンチの西側に延びるが、トレンチの西側には雨水槽が設置されており、トレンチを拡張して調査を行うことはできなかった。

本遺跡の場所は花見川の自然堤防上にあり、明治～昭和初期の地図では墓地とされている。1960年の千葉市都市図ではその記載が消えているため、墓地が移転、あるいは廃絶され、その際に、人骨や副葬品が取り残されたものと思われる。遺跡の時期としては、水道工事中に発見された人骨とともに出土した寛永通宝文銭から江戸時代17世紀半ば以降と思われる。なお、人骨の分析は別に行う予







定である。

各トレンチから得られた基本的な層序は1層：表土・攪乱層、2層：砂層（地山）であった。調査区全体にわたって、攪乱が深くまで存在していることがわかった。北側の5～8トレンチにおいては、1層下部に貝混じりの軟らかい土（2層）が存在していた。この層は旧表土と考えられた。

### （3）出土遺物

遺物は水道工事中に発見された人骨に伴っていたもののみであった。人骨は3か所から出土しているが、それに伴う形で、6枚ずつ寛永通寶が出土しており、六道銭であると思われる。出土した陶器の時期は明らかではないが、寛永通寶の内の1枚が文銭であり江戸初期のものである。なお人骨の分析は別に行う予定である。

表9：出土遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	近世	陶器	茶碗	白釉	人骨集中1周辺	胴部内面に薄の絵付けあり。
2	近世	金属製品	弁		人骨集中3周辺	
3	近世	その他	煙管		人骨周辺一括	野人が好んで使用したとされる碇形煙管。
4	近世	その他	煙管筒		人骨周辺一括	網代編み漆塗り。
5	近世	石製品	数珠		人骨周辺一括	17.4mmの夫1個、7.5,7.6,7.8,8.0,8.3,8.4mm（平均8.0mm）の小が6個、他に小の破片あり。石材は石英。

### （4）今後の取り扱い

今回の調査では土坑1基を確認し、土坑の調査を終了し、これをもって調査終了とした。

表 10：出土銭觀察表

No.	銭貨名	外径:縦(mm)	外径:横(mm)	外縁 最大厚 (mm)	重量(g)	備考
6	寛永通寶	24.3	24.3	1.2	3.3	古寛永
7	寛永通寶	24.3	24.2	1.3	3.4	古寛永
8	寛永通寶	25.2	25.2	1.4	4.2	文銭 新寛永
9	寛永通寶	25.4	25.4	1.3	(5.9)	新寛永 鉄銭接着
10	寛永通寶	23.8	24.0	1.1	2.6	新寛永
11	寛永通寶	24.3	24.4	0.8	2.0	新寛永
12	寛永通寶	24.2	24.2	1.1	2.8	新寛永
13	寛永通寶	24.3	24.2	1.2	3.0	新寛永
14	寛永通寶	22.8	23.0	1.1	3.0	新寛永
15	寛永通寶	22.4	22.5	1.0	2.0	新寛永
16	寛永通寶	24.4	24.4	1.2	3.2	新寛永
17	寛永通寶	23.9	23.7	1.0	2.9	新寛永
18	寛永通寶	24.3	24.3	1.1	3.1	新寛永
19	寛永通寶	24.4	24.5	1.4	3.4	詳細不明
20	寛永通寶	22.9	22.9	1.0	1.9	詳細不明



遺跡現況



6 トレンチ遺構検出状況(確認調査)



人骨出土状況①(水道工事時)



人骨出土状況②(水道工事時)



## 9. へたの台貝塚

	遺跡名	調査種別 事業区分	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
			調査地	調査の原因	原因者	
9	へたの台貝塚	確認・ 本調査	4千教埋セ第323号	2023年4月3日～ 2023年4月12日	40.0㎡ (40.0㎡)	木口裕史
		市単費	中央区仁戸名前273-1、273-4、273-5、 276-2の各地先の一部	ガス管新設	東京ガスネットワーク株式会社	

\*調査面積の下段( )内は事業面積

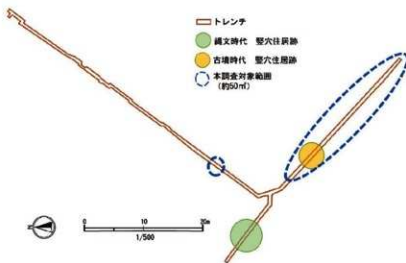


第21図：へたの台貝塚位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和4年9月29日付けで東京ガスネットワーク株式会社よりガス管新設工事にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。対象地は平成8年度の送電鉄塔の建て替え工事に伴う発掘調査、令和3年度および令和4年度の住宅建築の際の発掘調査が行われた地点の隣接地であり、埋蔵文化財があることが明白であったため、速やかに発掘調査指示を行なった。

対象地は道路として機能しているため、道路使用許可や掘削個所の即日復旧などさまざまな調整課題があり、令和5年4月3日から確認・本調査に着手した。



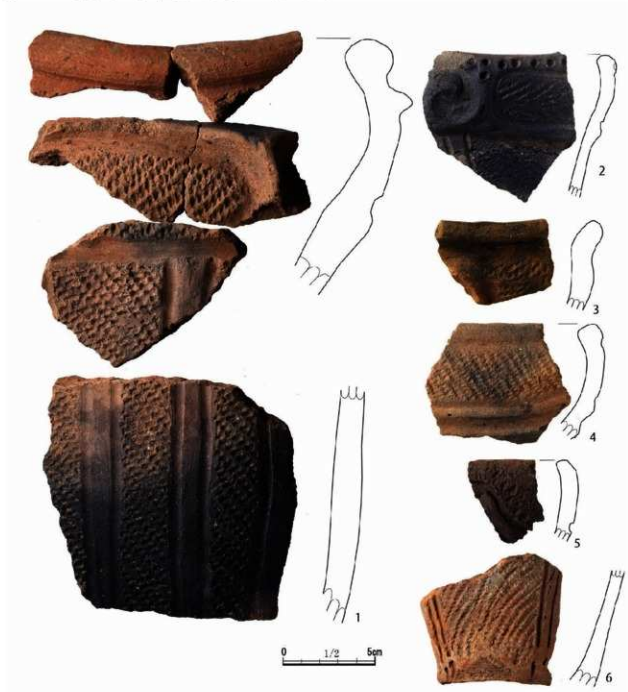
第22図：遺構配置図

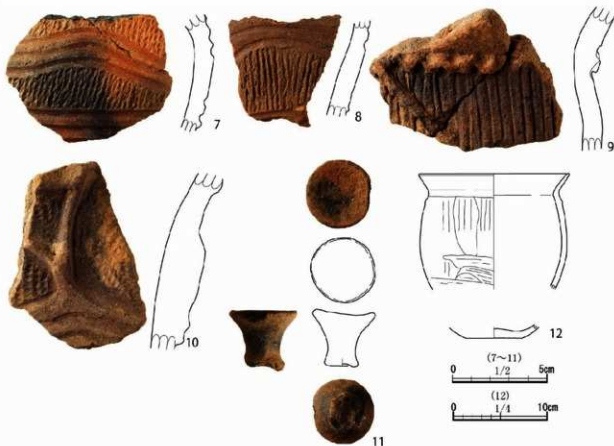
## (2) 調査成果

東京湾に流れ込む都川は、星久喜町北部で本流と仁戸名川（支川都川）に分岐する。本遺跡は仁戸名川の上流約2kmの左岸の標高約23m前後の台地上に位置する。

調査対象地は遺跡の中央北西付近に幅0.6m×延長103mのガス管理設範囲である。

調査は、対象地範囲が狭小であるため全域について遺構の確認を実施した。その結果、縄文時代貝層範囲を2か所と縄文時代の竪穴住居跡1軒、古墳時代の竪穴住居跡1軒を確認した。貝層範囲は、1か所は調査区南側約28mの範囲で、1か所は調査区中央部で約3mの範囲で確認した。南側の貝層はへたの台貝塚の南に位置する貝層の一部である。





### (3) 出土遺物

遺物は、調査区内全域から出土している。縄文土器は520点出土し、有文は5点を除く200点が加曾利E式前半である。加曾利EⅡ式が150点と大半を占め、EⅠ～EⅡ式2点、EⅡ～EⅢ式48点が混じる。また古墳時代の土師器・須恵器が56点出土している。南側の月ノ木貝塚でもEⅡ式の土器が出土し、双環状ををなす集落だが、本遺跡と異なり、今のところEⅡ式も新段階以降は確認されていない（濱他 2024）。

表 11：出土遺物観察表

№	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	縄文	土器	加曾利EⅡ	キャリバー	I-5-拵	
2	縄文	土器	加曾利EⅡ-別	キャリバー	K-18-拵	
3	縄文	土器	加曾利EⅡ-別	キャリバー	K-9-拵	
4	縄文	土器	加曾利EⅡ	キャリバー	K-12-拵	
5	縄文	土器	加曾利EⅡ		K-4-拵	
6	縄文	土器	加曾利EⅡ	キャリバー	K-15-拵	
7	縄文	土器	加曾利EⅡ		K-2-拵	
8	縄文	土器	加曾利EⅡ	透瓦文系	K-12-拵	
9	縄文	土器	加曾利EⅡ	資料系	K-2-拵	
10	縄文	土器	加曾利EⅡ	胴部横位透換文	K-3-拵	
11	縄文	土製品	耳飾		K-3-拵	
12	古墳	土師器	小型壺		K-15 ビット内	外面：胴部 タテヘラズリ→短いヨコヘラズリ。内面：ヨコナデ

#### (4) 今後の取り扱い

今回の調査はガス管理設のため道路に幅 30 cm 深さ 80 cm のトレンチを開けての調査となったが、良好な貝層が残る部分も多く確認された。トレンチが狭小であること、深さ 80 cm 以上掘削しないことから、80 cm 以下の混貝土層や黒色土は掘削せず現状保存とした。

下水や上水などの他のインフラ工事によって攪乱されているところも多いが、今後はこれらの付け替え工事等の際にも細心の注意を払う必要がある。

#### 参考文献

濱秀輝・西野雅人・服部智至 2024 印刷中「国史跡月ノ木貝塚について一立合調査報告と過去の調査成果一」『貝塚博物館紀要』50



トレンチ東部調査風景



遺物検出状況



トレンチ西部完掘状況



トレンチ東部貝層上面検出状況



トレンチ西端部掘削状況



貝層検出状況



トレンチ東部貝層断面



トレンチ東部ビット掘削状況



トレンチ西部貝層検出状況



トレンチ北西部掘削状況



トレンチ東部貝層サンプル採取風景



トレンチ北西部調査前状況



## 10. 上鶴牧遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
10	カミツルツキ 上鶴牧遺跡	確認調査	5千教壇セ第13号	2023年5月18日～ 2023年5月26日	93㎡ (968.0㎡)	木口裕史
		国庫補助	花見川区畑町840	宅地造成	タクトホーム株式会社	

\* 調査面積の下段( )内は事業面積



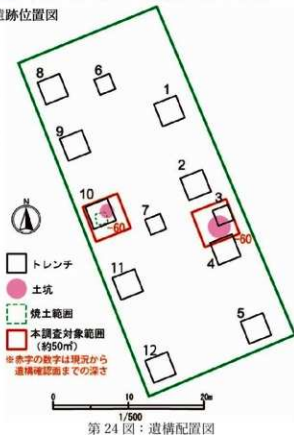
### (1) 調査に至る経緯

第23図：上鶴牧遺跡位置図

令和5年3月23日付けでタクトホーム株式会社より宅地造成にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和5年4月5日に実施した試掘調査にて、古墳時代から平安時代頃に推定される土坑と土師器や須恵器など遺物が検出されたため、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、確認調査を実施した。

### (2) 調査成果

上鶴牧遺跡は、東京湾に注ぐ花見川より入り込む支谷に面した標高約21mの台地上に位置する。対象地の西側約20mの住宅地において、平成5年度に発掘調査が行われ、古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居跡が6軒調査されている。奈良時代の住居跡で火災の痕跡と思われる炭化材が検出され、さらにその上に多数の貝が投棄されていた。また、表採遺物ではあるが、有孔円板など未製品を含む滑石製石製品が6点見つかった。



第24図：遺構配置図

調査対象地は遺跡の中央部付近から南側にかけての一部で長方形の範囲である。調査は、対象地範囲に合わせた任意の 10m グリッドを基準に 2m × 2m と 3m × 3m のトレンチを合わせて 12 か所に設定し調査を実施した。

調査の結果、対象地の中央付近で奈良時代の土坑 2 基を確認した。うちトレンチ 3 からは貝層が検出され、貝層内から出土した須恵器 (2) より 9 世紀ごろのものと思われる。遺構の時期・性格を確認するため、貝層の一部を掘り下げた。掘り上げたものは貝サンプルとした。詳細な分析結果は別に報告する。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層（表土）：0.6m 前後、2：明褐色土層（ソフトローム層）からなり、一部のトレンチで盛土が確認できた。検出遺構は、2 層の上面で確認した。

### (3) 出土遺物

遺物は、土師器 46 点、須恵器 4 点、陶器 18 点、染付 7 点、石製品 1 点が出土している。遺構を確認したトレンチを含めて 4 か所の確認トレンチから出土しているが、大半が遺構のある 3、10 トレンチからの出土である。古墳時代の土師器・須恵器であり、土師器が主体的である。また、平成 5 年度調査に引き続き石製の有孔円板が 1 点出土している。

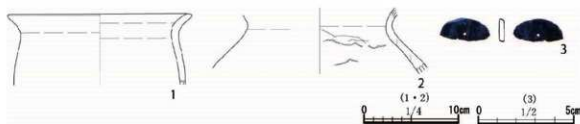


表 12：出土遺物観察表

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	土師器	鏝	口縁部	10T-1括	外面：C線 ヨコナデ、内面：ヨコナデ
2	古墳	須恵器	鏝	頸部	3T貝層一括	外面：頸部 模化タタキ目、内面：ヨコナデ
3	古墳	石製品	滑石製模造品	有孔円板	6T-1括	厚さ 2.8mm

### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果事業面積 968 m<sup>2</sup> の約 5% にあたる 50 m<sup>2</sup> が本調査対象範囲となったが、盛土造成により保護層が十分に確保できることが確認できたため現状保存とした。



トレンチ 2 検出状況



トレンチ 3 検出状況



トレンチ 10 検出状況



トレンチ 10 遺構状況



トレンチ 10 土坑



トレンチ 3 土坑



トレンチ 3 土坑具層状況①



トレンチ 3 土坑具層状況③



トレンチ 3 土坑具層状況②



## 11. 下田遺跡

	遺跡名	調査種別	免振届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
11	シモダ 下田遺跡	確認調査	5千教壇七第11号	2023年6月8日～ 2023年6月28日	117.5㎡ (1952.20㎡)	木口裕史
		市単費	稲毛区園生町778、781-9、778地先	宅地造成	昭和ハウジング販売株式会社	

\*調査面積の下限( )内は事業面積



第 25 図：下田遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和 5 年 3 月 23 日付けで昭和ハウジング販売株式会社より宅地造成にかかる埋蔵文化財保護法第 93 条に基づく届出が提出された。令和 5 年 4 月 25 日に実施した試掘調査にて、堅穴住居跡や土師器などを検出したため、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、確認調査を実施した。

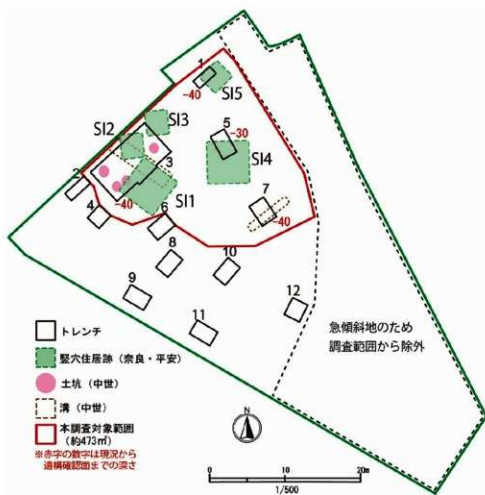
確認調査の途中段階で下水道等のインフラの敷設が予定されている場所に埋蔵文化財がかかることが判明した。その面積が 40 ㎡ほどと狭小であったため、拡幅してその部分のみ本調査を実施した。

### (2) 調査成果

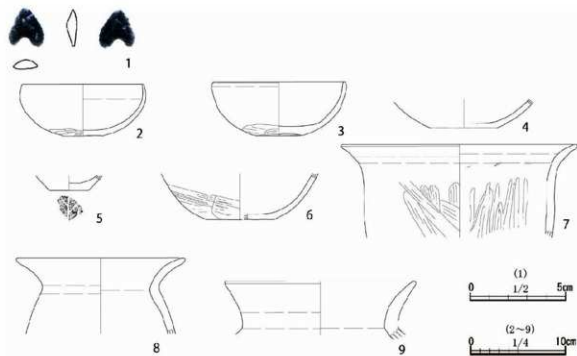
遺跡の北東を北から南へと流下する草野都市下水路を崖下に臨む標高 26～27m の台地上に位置する。本遺跡では今回の調査区の北側で、平成 7・8 年度に大規模な調査が行われ住居跡 82 軒、掘立柱建物 14 軒が確認されており、大きな集落が形成されていたことが確認されている。時期としては 7 世紀前半から 10 世紀初頭までの長期間に及ぶ。また、7 世紀の住居跡からは畿内産（あるいは畿内産の模倣）の土器、8 世紀の住居跡からは新治窯産の土器、9 世紀以降の住居跡からは千葉市域産の土器が出土しており、市内域での土器利用の変遷を示唆するものもなった。

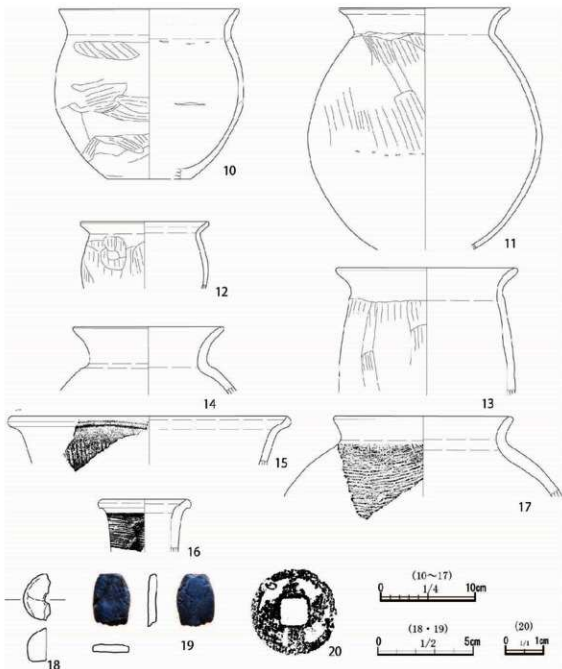
今回の調査の対象地は、遺跡範囲の南端部付近にあたり南側と東側の傾斜地部分は遺跡外で調査対象から除外している。

調査は、対象地内の樹木等を外した位置にトレンチ 12 か所を設定して実施した。状況に応じて 1.5m×3m、2m×2.5m、2m×3m のトレンチを配置し、一部のトレンチについては拡張した。



第 26 図：遺構配置図





調査の結果、対象地の北寄りで奈良・平安時代の住居跡5軒と中世の溝2条、土坑4基を確認した。本遺跡の集落範囲の南端部が確認でき、少なくとも台地南部においては、台地辺縁まで集落として利用されていることがわかった。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層（表土）：0.2m～0.4m、2：灰褐色土層（遺物包含層）0.2m前後、3：褐色土層、4：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。検出遺構は、3・4層の上面で確認した。

### (3) 出土遺物

遺物は、土師器510点、須恵器33点、陶器7点、土製品2点（支脚1、土錘1）が出土している。SI1、4から多く出土しており、奈良・平安時代の土師器を主体に須恵器、土製品、石製品等を確認している。SI1のカマドからは土師器が出土している。SI4のカマドからも正立した甕とそれに重ねた坏が出土している。いずれもカマド祭祀の痕跡であると思われる。また、今回の調査では新治窯産（常総産）と断定できる土器は見られなかった。出土した坏は非ロクロ成形のもので8世紀のものであると思われる。甕も同じ時期のものであると考えられる。



SI4 カマダ一括遺物

表 13：出土遺物観察表

No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	石器	石鏃	ハート形	SD1 3層	石村は黒曜石
2	古墳	土師器	坏	赤彩	ST Ⅱ-4層	外面：ナデ、内面：ナデ
3	古墳	土師器	坏	赤彩	ST Ⅱ-4層	外面：上部ナデ、下部ヘラケズリ
4	古墳	土師器	坏	底部	ST Ⅱ-4層	外面：ヘラケズリ
5	古墳	土師器	小型壺	底部	SI1 5層洋上	裏に葉脈痕あり
6	古墳	土師器	壺	底部	SI4一括	外面：ヘラケズリ
7	古墳	土師器	壺		SI1一括	外面：口縁 ココナデ、胴部 細いタテ、ナナメヘラケズリ、内面：ココナデ、胴部 粗いヘラキ
8	古墳	土師器	壺		SI1一括	外面：ココナデ、内面：ココナデ
9	古墳	土師器	壺	口縁部	ST Ⅱ-4層	外面：ココナデ、内面：ココナデ
10	古墳	土師器	壺		ST Ⅱ-4層	外面：上部ナデ、下部ヘラケズリ
11	古墳	土師器	壺		ST 普通内	外面：タテヘラケズリ、内面：ナデ
12	古墳	土師器	小型壺	口縁一輪	A地区 Dot9 SI2	外面：上部タテヘラケズリ、内面：ココナデ
13	古墳	土師器	壺	口縁一輪	A地区 Dot2 SI1	外面：胴部タテヘラケズリ、口縁ココナデ、内面：ナデ
14	古墳	土師器	壺	口縁部	A地区 Dot5 SI2	外面：ココナデ、内面：ココナデ
15	古墳	滑石器	壺	口縁部	A地区一括	外面：体部横位タタキ目
16	古墳	滑石器	壺	口縁部	A地区一括	外面：体部横位タタキ目
17	古墳	滑石器	壺	口縁部	A地区 Dot7 SI2	外面：体部横位タタキ目
18	古墳	土製品	土鏃	丸	SI2 1層	
19	古墳	石製品	滑石製埴土品		ST一括	

表 14：出土銭観察表

No.	出土地点	銭貨名	外径:縦(mm)	外径:横(mm)	外縁 最大厚(mm)	重量(g)
1	SK2一括	元(不明)	22.9	22.5	0.7	2.2

#### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 1,952.20 m<sup>2</sup>の約 22%にあたる 435 m<sup>2</sup>が本調査対象範囲となったが、影響範囲は確認調査にて調査が終了しているため、その他の本調査対象範囲は盛土により現状保存す

ることとした。しかしながら、事業者より全面的に切土を行うという大幅な計画変更の申し出があり、協議を継続中である。



トレンチ 1 検出状況



トレンチ 3 検出状況



トレンチ 5 検出状況



S14 遺物検出状況①



トレンチ 5 遺物検出状況②



トレンチ 3 検出状況



トレンチ 3 完掘状況

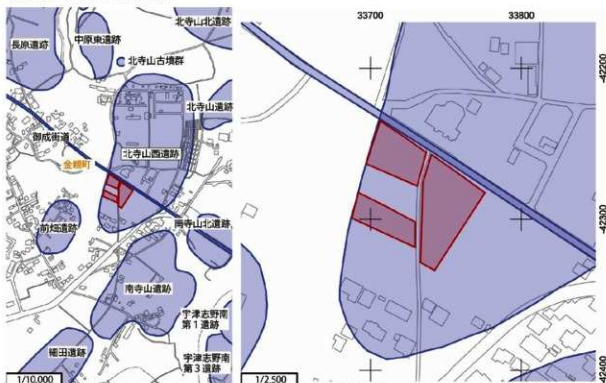


S11 カマド検出状況

## 12. 北寺山西遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
12	カタケラケマニシ 北寺山西遺跡	確認調査	5千教壇セ第29号	2023年6月29日～ 2023年7月21日	378.0㎡ (5059.00㎡)	木口裕史
		国庫補助	若葉区金親町120-1、同4、129-12	太陽光発電施設建設	水野商事株式会社	

\*調査面積の下段( )内は事業面積



第 27 図：北寺山西遺跡位置図

### (1) 調査に至る経緯

令和5年3月14日付けで水野商事株式会社より太陽光発電設備設置にかかる埋蔵文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和5年3月30日に実施した試掘調査にて、奈良時代から平安時代頃に推定される竪穴住居跡2軒と、大量の土師器片などが検出されたため、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、確認調査を実施した。

### (2) 調査成果

北東に鹿島川水系から延びる支谷、南西に都川水系から延びる支谷に面した標高約 37mの台地上に位置する。本遺跡は調査歴がないが、多くの土器片が採掘できる状況であることは知られていた。中原、宇津志野、宇津志野窯跡に囲まれるような場所であり、当時の須恵器生産との関連を有する可能性がある。

事業対象地は、遺跡範囲の南側付近にあたり道路や畑地で区切られ3か所のブロックが北・東・南にコの字状に配置された形状で北東部に御成街道が通っている。

調査は、対象地に任意の3m×3mのトレンチ42か所を設定して実施した。

調査の結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒、土坑7基、ピット15基、溝状遺構1条を確認した。確認した竪穴住居跡は北のブロックの南側に集中して展開しており、土坑・ピットについては、東側のブロックでは中央西側に南側のブロックでは北側寄りに検出している。またトレンチ10の土坑内からは土器片が積み上げた状態で出土している。

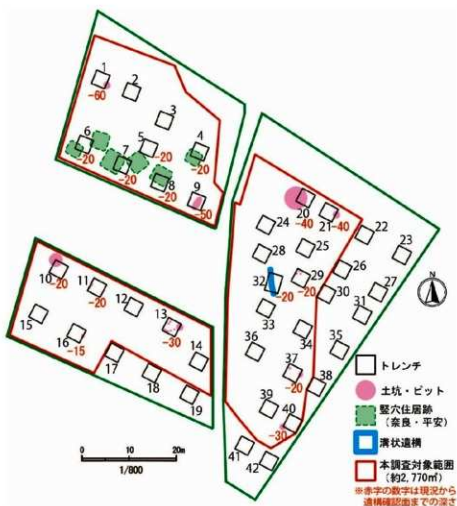


各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層(表土)：0.2m～0.4m、2：黄褐色土層0.2m前後、3：暗褐色土層、4：明褐色土層(ソフトローム層)からなる。検出遺構は、3・4層の上面で確認した。

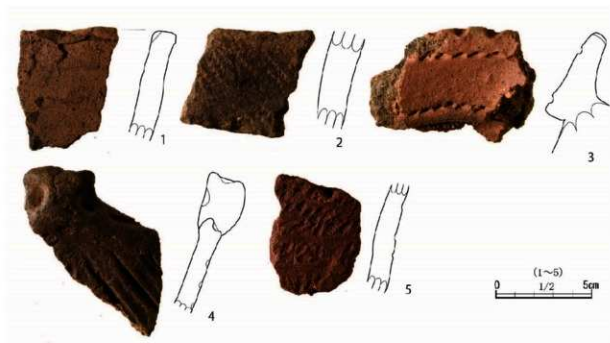
### (3) 出土遺物

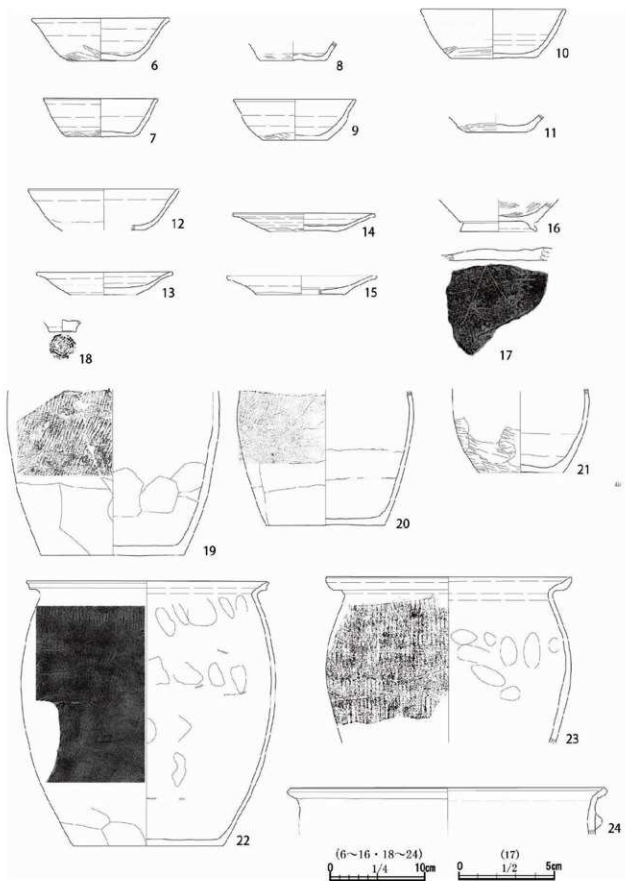
遺物は、すべてのトレンチから出土している。土師器が2,142点、須恵器が271点、縄文土器が7点、陶器が2点出土している。奈良・平安時代の遺物が主体的に出土しており、遺構を確認したトレンチからは多く検出している。

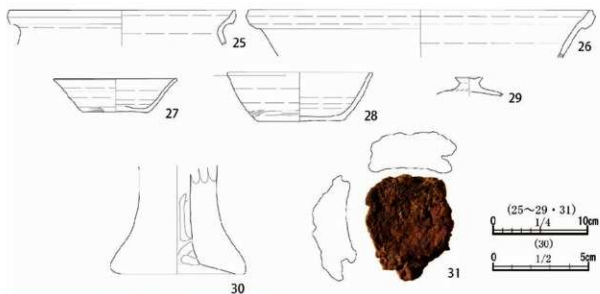
一部の土師器は形状から近隣の中原窯産とも思われた。また、トレンチ10の出土状況(図版参照)から土器工房や窯、あるいは土器集積の存在も示唆された。



第28図：遺構配置図







出土土器

#### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果事業面積 5,059 m<sup>2</sup>の約 55%にあたる 2,770 m<sup>2</sup>が本調査対象範囲となった。盛土造成や太陽光パネルの置き型設備への変更などにより現状保存できるよう協議を継続している。

表 15：出土遺物観察表

№	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	縄文	土器	深鉢	口縁部	7T S11 Ⅱ-2層	多岐文土器。表裏ナデ。口唇内側削み。
2	縄文	土器	深鉢	口縁部	7T-1区	前期末か。縄文Ⅱ。
3	縄文	土器	深鉢		9T-1区	阿玉台 I b, 朝顔状突起。結節状。底の内。突起部。文様・彫刻。
4	縄文	土器	深鉢	口縁部	13T-1区	
5	縄文	土器	深鉢		10T S11サブトレ	括骨片。彫刻。縄文。条線。
6	奈良・平安	土器類	杯		4T Dot1	ロクロ成形。外面：体部下端へラケズリ。底面 静止へラケズリ調整
7	奈良・平安	土器類	杯		6T Dot1	ロクロ成形。外面：体部下端へラケズリ。底面 静止へラケズリ調整 中界差か？
8	奈良・平安	土器類	杯	底部	7T S12	底部に響き跡の印あり 外面：体部下端へラケズリ。底面 静止へラケズリ調整
9	奈良・平安	土器類	杯		7T Dot2	ロクロ成形。外面：体部下端へラケズリ。底面 静止へラケズリ調整 中界差か？
10	奈良・平安	土器類	杯		7T Dot4	ロクロ成形。外面：体部下端へラケズリ。底面 静止へラケズリ調整 中界差か？
11	奈良・平安	土器類	杯		10T Ⅱ-2層	ロクロ成形。外面：体部へラケズリ。底面 回転へラケズリ調整
12	奈良・平安	土器類	杯		32T-1区	ロクロ成形。外面：体部下端へラケズリ。底面 回転へラケズリ調整
13	奈良・平安	土器類	皿		6T Dot2	ロクロ成形。外面：底面 静止へラケズリ調整
14	奈良・平安	土器類	皿		7T Dot6	ロクロ成形。外面：底面 静止へラケズリ調整
15	奈良・平安	土器類	皿	底部	10T S11サブトレ	ロクロ成形。外面：底面 静止へラケズリ調整。内面：黒色物質塗布
16	奈良・平安	土器類	碗？	底部	10T Dot1	粘り付け黒色。内面：へらこぎ
17	奈良・平安	土器類	皿		6T-1区	底部に響き跡の印あり
18	奈良・平安	土器類	碗	底部	18T-1区	底部に糸切り痕状の文様が鮮明に残る。
19	奈良・平安	土器類	壺	胴～底部	4T Dot2	外面：上部 タタキ目。内面：ナデ
20	奈良・平安	土器類	壺	胴～底部	4T Dot3	外面：体部 上部 タタキ目。下部 へラケズリ。内面：接合痕
21	奈良・平安	土器類	小型壺	胴～底部	4T Dot5	外面：体部 上部 ナデ。下部 へラケズリ。内面：ナデ
22	奈良・平安	土器類	壺		10T Dot2	外面：体部 縦位 タタキ目。斜位 タタキ目。下端 へラケズリ
23	奈良・平安	土器類	壺	口縁部	10T Dot3	外面：体部 縦位 タタキ目。横位 縦面筋。9C後半
24	奈良・平安	土器類	壺		6T-1区	外面：口縁 上方につまみ出し。体部 縦位 タタキ目。把手 粘土塊をゆがんだ円錐状に接着
25	奈良・平安	滑石器	鏝	口縁部	32T-1区	外面：口唇部 上方につまみ出し。口縁部 折り返し
26	奈良・平安	土器類	壺	口縁部	32T-1区	外面：口唇部 上方につまみ出し。口縁部 折り返し。9C後半
27	奈良・平安	滑石器	杯		6T-1区	外面：体部下端 へラケズリ。底面 静止へラケズリ調整
28	奈良・平安	滑石器	杯		7T Dot1	ロクロ成形。外面：体部下端 へラケズリ。底面 回転へラケズリ調整
29	奈良・平安	滑石器	片鏝		10T S11サブトレ	ロクロ成形
30	奈良・平安	土器類	高杯	底部	32T-1区	中心部に穿孔。孔内面をへらで調整
31	奈良・平安	鉄製品	不明		6T-1区	円盤状の鉄塊が重なったものが錆で付着。重さ532.7g。



トレンチ 6 検出状況



トレンチ 7 検出状況



トレンチ 5 検出状況



トレンチ 9 検出状況



トレンチ 13 遺構検出状況



トレンチ 4 遺物検出状況①



トレンチ 4 遺物検出状況②



トレンチ 8 遺構検出状況



トレンチ 8 土層断面



トレンチ 9 土坑土層断面



トレンチ 10 検出状況

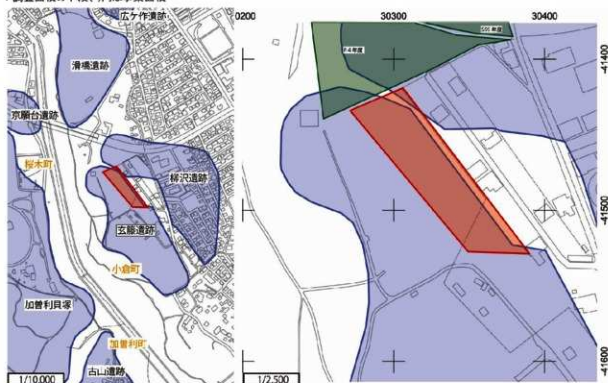


トレンチ 10 遺物出土状況

### 13. 玄藤遺跡・柳沢遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
ゾントウ 玄藤遺跡 ヤナギワ 柳沢遺跡	確認調査	5千教文第78号	2023年5月22日～ 2023年6月30日	440m <sup>2</sup> (4400.16m <sup>2</sup> )	服部智至
	市単費	若葉区小倉町1027-5外37筆	博物館および周辺施設 整備	千葉市	

\*調査面積の下限( )内は事業面積



第29図：玄藤遺跡・柳沢遺跡位置図

#### (1) 調査に至る経緯

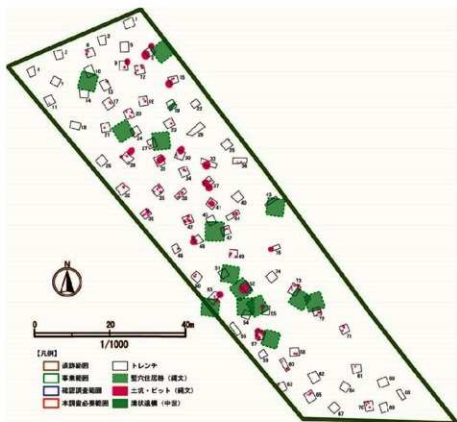
対象地は特別史跡加曾利貝塚新博物館整備予定地である。昭和59年に(財)千葉県文化財センターが実施した千葉都市モノレール建設に伴う発掘調査で、縄文時代中期初頭の竪穴住居跡3軒を検出した地点の隣接地である。加曾利貝塚に密接な関係を持つ集落であるため、今後の土地利用や出土資料の活用も含めた調査が必要と判断し、令和4年度から地点を分けて確認調査を実施している。令和4年度は、事業地17,634㎡のうち柳沢遺跡を主体とする4,083㎡を対象に調査を実施し、縄文時代中期前半の遺物包含層および竪穴住居跡8軒ほかを検出した。今年度は、令和4年度調査地点の南側隣接地、玄藤遺跡を主体とする4,400㎡を対象として確認調査を実施した。

#### (2) 調査成果

2.0m×2.5mを基本とするトレンチを任意に設定し、合計75か所、約440㎡の調査を実施した。樹木が林立する対象地の全域を捕捉するため、トレンチの規格などは状況に応じて適宜変更した。各トレンチの土層堆積から得られた基本層序は、1：表土層、2：黒褐色土層、3：暗褐色土層(遺物包含層)、4：明褐色土層(ソフトローム層)の4層からなる。遺構および遺物包含層は、3層上面もしくは3層中位で確認され、表土上面より概ね40cmから60cmの深さに分布する。ただし、遺構覆土の大半は、基本層序3層の暗褐色土と酷似しており、3層上面での峻別は困難であった。平面で確実に認識できたのは4層上面付近であり、トレンチ壁面にかかる遺構で、3層上面もしくは3層中



位からの掘り込みを確認している。確認した遺構は、縄文時代中期前半の竪穴住居跡 14 軒、土坑・ピット 138 基のほか、中近世の溝状遺構 1 条である。柳沢遺跡から玄藤遺跡にかけて遺構・遺物の分布状況を俯瞰すると、北西-南東に軸を持つ帯状もしくは緩やかな弧状に、とりわけ密度濃く分布しつつ、玄藤遺跡ではほぼすべてのトレンチから遺物が出土している。阿玉台・勝坂式後半、中期大型貝塚が成立する直前の土器が目立ち、当該期の遺構群乃至は良好な包



第 30 図：遺構配置図

含層が広範囲に広がっている可能性が高い。また、明確な遺構は検出されていないものの、後期初頭称名寺式も調査区の北西部 (T25・27・29 を結ぶ線より北西) に遺物のまとまりがあり、当該期の遺構の存在も示唆される。

### (3) 出土遺物

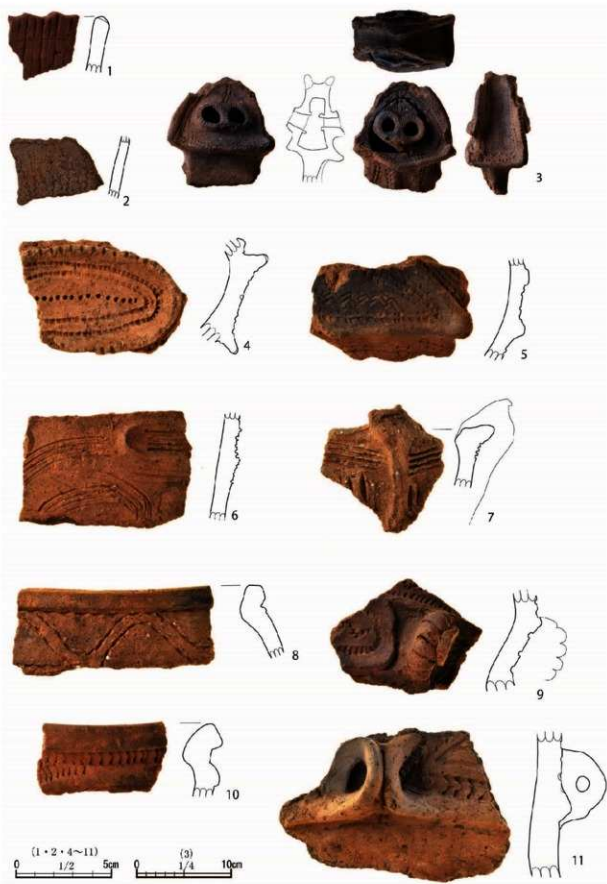
有文 687 点のうち、阿玉台・勝坂式後半が 552 点 (80.3%) と大半を占め、残りの良い破片が多い。称名寺式も 78 点 (11.3%) とまとまっている。そのほかは、早・前期 11 点 (燃糸文、沈線文、浮島)、加曾利 E I 式 1 点、E II ~ III 式 29 点、E III ~ E IV 式 2 点、後期前葉以降 15 (堀之内~加曾利 B) 点である。加曾利貝塚の成立前や、大型貝塚の消滅期が主体である

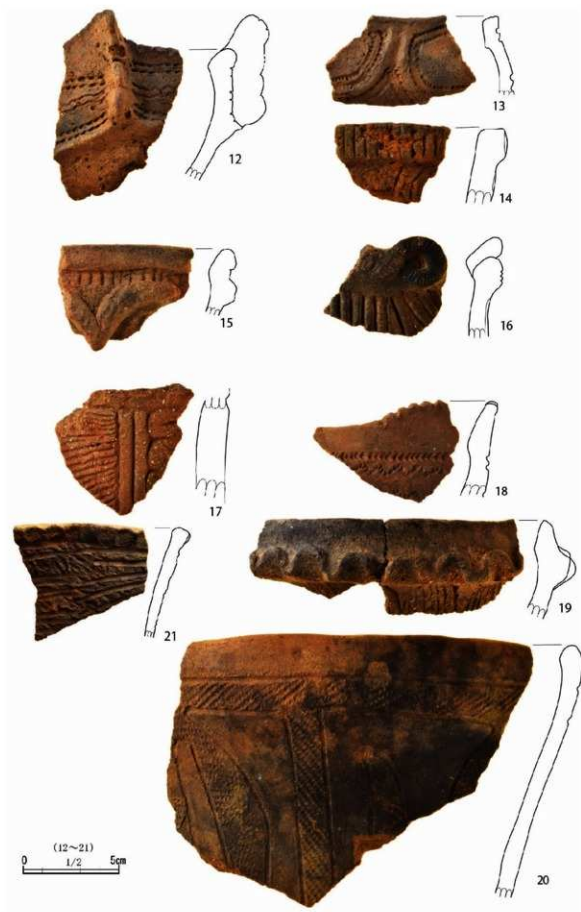
土製品は、土器片 12 点と加工土器片 1 点がある。時期不明以外は阿玉台式または勝坂式土器を素材としている。土器片 12 点、完形 5 点、切り込みの一方を欠損するものが 7 点ある。加工土器片は、両面からの末貫通孔をもち、一方は石器で縦に傷をつける形、他方は回転穿孔である。

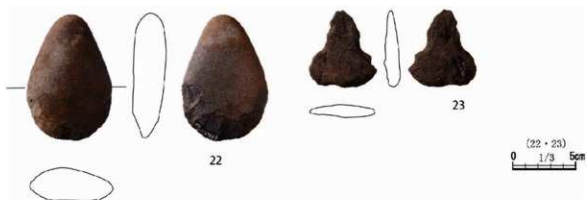
石器は、磨製石斧・打製石斧・ヘラ状石器・磨石類・砥石各 1 点、剥片類 24 点、礫 20 点・計 1.4kg がある。片理ある礫を打製石斧状に加工した「段間型ヘラ状石器」も含まれる。剥片類は黒曜石 23 点 (62.5g)、チャート 1 点 (5.9g) がある。石核 4 点や石錐の可能性のあるもの、微細剥離をもつものが含まれる。黒曜石が多く比較的大きな剥片が含まれるのは阿玉台式期の特徴といえる。

### (4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、対象地の全域に遺構が分布していることが確認されたため、対象地 4,400 m<sup>2</sup>のすべてを本調査対象範囲とした。本調査は令和 6 年度以降に実施する予定である。なお、令和 4 年度に確認調査を実施した 4,083 m<sup>2</sup>については令和 5 年度から本調査に着手している。







土器片錘

表 16：出土遺物観察表

№	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土器	早期		52T	条痕文。口唇押圧により流状。外面半截竹管内側による周状線。内面ナ 子。
2	縄文	土器	前期		11T	浮島系。流状片段取
3	縄文	土器	阿玉台		17 No.1	撥灰系。内外面ほぼ同一の双環筋彫（ミミズク把手）
4	縄文	土器	阿玉台		9T	阿玉台B。楕円区画+角押文。
5	縄文	土器	阿玉台		53T	阿玉台。陸部区画内に押引文。
6	縄文	土器	阿玉台		26T	阿玉台。狭い陸部。4条筋彫引文。
7	縄文	土器	阿玉台		53T	阿玉台。陸部。4条筋彫引文。区画内に周状線。
8	縄文	土器	阿玉台		53T	阿玉台。陸部+陸部沈線。区画内に陸部沈線。
9	縄文	土器	阿玉台		74T	撥灰系。楕円区画+角押文。突起。
10	縄文	土器	阿玉台		12T	撥灰系。陸部+押引文。
11	縄文	土器	阿玉台		43T No.1	撥灰系。陸部+押引文。
12	縄文	土器	阿玉台		51T	阿玉台B。楕円区画+角押文。
13	縄文	土器	阿玉台		51T	阿玉台B。楕円区画+角押文。
14	縄文	土器	阿玉台		16T	撥灰系。口縁部沈線。胴部沈線意匠文。
15	縄文	土器	阿玉台		74T	撥灰系。陸部+押引文。陸部上段。
16	縄文	土器	阿玉台		39T	撥灰系。刻み陸部意匠文。半截竹管の内側による沈線文
17	縄文	土器	阿玉台		63T	撥灰系。刻み陸部意匠文。半截竹管の内側による沈線文。区画内に沈線。 蛇行文。
18	縄文	土器	阿玉台		77T	撥灰系。密な押引文区画。意匠文。口縁のみ
19	縄文	土器	阿玉台		27T No.2	指押圧。陸部区画。5条筋彫引文。
20	縄文	土器	和歌寺		11T No.1	和歌寺式。沈線区画。意匠文内L.R.
21	縄文	土器	阿玉台		4T	宝骨利口式相型。縄文+条部
22	縄文	石器	打製石斧		10T	
23	縄文	石器	へう状石器		35T	設問型へう状石器



トレンチ 1 遺物検出状況



トレンチ 19 遺構検出状況



トレンチ 24 遺構検出状況



トレンチ 31 遺構検出状況



トレンチ 37 遺構検出状況



トレンチ 41 遺構検出状況



トレンチ 42 土層断面



トレンチ 51 遺構検出状況



トレンチ 52 遺構検出状況



トレンチ 52 土層断面



トレンチ 53 遺物検出状況



トレンチ 70 遺構検出状況



## 報告書抄録

ふりがな	あいぞうぶんかさいちょうふしなひんせいせきほうちょう								
書名	埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書								
副題名	令和5年度一								
巻次									
シリーズ名	市内遺跡報告書								
シリーズ番号	第36冊目								
編著者名	木口祐史・岸本高亮・山下亮介・松田光太郎・服部智至・清秀輝								
編集機関	千葉市教育委員会 千葉市埋蔵文化財調査センター								
所在地	千260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL.043-266-5433								
発行年月日	2024(令和6年)3月25日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査種別	調査期間	調査面積	調査理由
		市町村	遺跡番号						
種類/主な時代/主な遺構		主な遺物							
特記事項									
生実城跡	中央区生実町 1649-1	12101	中央区 -123	35° 33' 47"	140° 8' 48"	確認・ 本調査	2023年1月16日～ 2023年2月10日	267.0㎡	倉庫建築
遺成跡/中・近世/土坑4基、溝状遺構1条		陶器、磁器、土師質土器、瓦、鉄							
清水台西遺跡	若葉区大宮町 2164-3、2166-1他	12104	若葉区 -190	35° 35' 11"	140° 30' 37"	確認調査	2022年12月5日～ 2022年12月16日	180.0㎡	埋め立て
包蔵地/縄文時代、近世/船穴、炭焼窯		縄文土器、泥面子							
清水台西遺跡	若葉区大宮町 2166-4、同6、同7、同22他	12104	若葉区 -190	35° 35' 11"	140° 30' 37"	確認調査	2022年12月13日～ 2022年12月19日	180.0㎡	倉庫建築
包蔵地/縄文時代/遺構なし		調査の結果、埋蔵文化財が確認できなかった。							
居常宅遺跡	花見川区浜花町977-7	12102	花見川区 -130	35° 39' 33"	140° 4' 2"	確認調査	2022年11月7日～ 2022年11月22日	144.0㎡	宅地造成
集落跡/古墳時代、中・近世/竪穴住居跡7軒、土坑6基		土師器、須恵器、陶器、磁器、 泥面子							
工事を事前に本調査が必要を要す。									
大宮作遺跡	中央区宮崎町 622-1の1他、619-2他他地先	12101	中央区 -57	35° 35' 13"	140° 8' 32"	確認調査	2023年2月1日～ 2023年2月20日	230.0㎡	店舗建設
集落跡/奈良・平安時代、中世/竪穴住居跡1軒、土坑6基、 溝状遺構2条		土師器、須恵器、陶器、磁器、 泥面子							
本調査対象範囲外。埋蔵文化財が2023年1月に 本調査を実施。それ以外の調査実施。									
宮後遺跡	稲毛区作草部町916	12103	稲毛区 -65	35° 37' 45"	140° 7' 8"	確認調査	2023年3月14日～ 2023年3月26日	90.0㎡	集合住宅建築
集落跡/古墳時代、奈良・平安時代/竪穴住居跡2軒、土坑2基		土師器、土鏡、鉄鏡							
本調査対象範囲外が埋蔵物を多量に埋め残す。									
砂子遺跡 新堀遺跡	稲毛区作草部町 626-1、同4、同7、564-1	12103	稲毛区 -164	35° 37' 45"	140° 7' 30"	確認調査	2023年4月12日～ 2023年4月24日	138.0㎡	宅地造成
集落跡/奈良・平安時代/竪穴住居跡5軒、柱穴3基		土師器、須恵器							
工事を事前に本調査が必要を要するとして、2023年3月に本調査を実施。									
本宿遺跡	花見川区浜花町 756-10、同11、同35、同36	12103	花見川区 -148	35° 39' 18"	140° 3' 53"	確認調査	2023年3月16日～ 2023年3月28日	32.0㎡	住居建築
區域/中・近世/土坑1基		陶器、磁器、数珠、人骨							
今回の調査にて事業地の外側の必要な調査 はすべて終了した。									
へたの倉貝塚	中央区仁戸名町 273-1、同4他各他地先の一部	12101	中央区 -84	35° 37' 37"	140° 9' 33"	確認・ 本調査	2023年4月3日～ 2023年4月12日	40.0㎡	ガス管新設
貝塚、集落跡/縄文時代、古墳時代/竪穴住居跡2軒、貝塚		縄文土器、土師器、貝製品							
工事を事前に200㎡以下埋蔵文化財 は確認を要す。									
土蔵校遺跡	花見川区稲町940	12102	花見川区 -93	35° 39' 44"	140° 4' 40"	確認調査	2023年5月18日～ 2023年5月26日	93㎡	宅地造成
包蔵地/奈良時代/土坑2基		土師器、須恵器							
本調査対象範囲外はすべて埋蔵を要す。									
下田遺跡	稲毛区園生町 778、781-9、778他先	12103	稲毛区 -38	35° 38' 46"	140° 6' 26"	確認・ 本調査	2023年6月8日～ 2023年6月28日	117.5㎡	宅地造成
集落跡/奈良・平安時代、中世/竪穴住居跡5軒、溝2条、土坑4基		石鏡、土師器、須恵器、陶器、鉄貨							
調査者にて大塚に計測調査が実施し、埋蔵 跡を確認。									
北香山西遺跡	若葉区金網町 120-1、同4、129-12	12104	若葉区 -250	35° 37' 3"	140° 12' 18"	確認調査	2023年6月29日～ 2023年7月21日	378.0㎡	太陽光 発電施設建設
集落跡/奈良・平安時代/竪穴住居跡6軒、土坑7基、溝状遺構1条、ピット 15基		縄文土器、土師器、須恵器、 鉄製品							
本調査対象範囲外が事業地の完成時に必要 な調査はすべて埋蔵を要す。									
支所遺跡 柳沢遺跡	若葉区 1027-5外37条	12104	若葉区 -125/126	35° 37' 31"	140° 30' 6"	確認調査	2023年5月22日～ 2023年6月30日	440㎡	博物館及び 周辺施設整備
集落跡/縄文時代/竪穴住居跡14軒、土坑・ピット138基		縄文土器							
令和6年度までに本調査を予定。									



埋藏文化財調査（市内遺跡）報告書

－令和5年度－

発行日 2024（令和6）年3月25日

発行 千葉市教育委員会

〒260-8730 千葉市中央区千葉港1番1

電話 043-245-5962（生涯学習部文化財課）

印刷 株式会社 白樺写真工芸

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102番5

電話 043-423-1101

